



Achievement of Hatano Eye Clinic

20
years

医療法人湘陽会 ルミネはたの眼科
20年のあゆみ



CONTENTS

01	目次
02	プロフィール
03	ご挨拶
04	クレド(信条)
06	お祝いメッセージ
10	医師紹介
12	20年の歩み
14	診療内容・診療実績
18	当院における角膜移植
20	臨床教授として
22	20周年記念座談会 「神奈川の角膜移植を考える」
28	「光響」の取り組み
32	院内定期イベント ①東海道カンファランス ②公開説明会 ③ランチョンセミナー
38	院長学術業績
46	当院勤務医師の業績
52	思い出の書評・掲載誌・論文
58	ビジターの方々
59	恩師との思い出
60	恩人の本
62	思い出のアルバム
67	20周年記念パーティー
68	院長の趣味・習い事
70	副院長として・職員を代表して
72	編集後記

column コラム

秦野 寛「雑感・放言コラム」 序にかえて

今回この記念誌を契機にいくつか自由文を書いてみた。慣れぬことだが、回想するうち、いろいろ頭に沸いてきた。世に自費出版で自伝、随想など出す人がいるが、そのミニ版の感がある。今まで、医学論文以外は執筆依頼される機会もなかったもので、初めての記述である。自分なりに種々考えや思いがあったのかと我ながら改めて驚いている。中身は雑感、提言、引け目、自惚れ、伝言、大風呂敷など公私のごった煮である。徒然なままに書いた。興味ある所だけでもお付き合い願えれば幸いである。

① 湘南高校柔道部	p.02	⑨ 私の音楽歴	p.29	⑰ クラリネットとファゴット	p.57
② 私の1週間	p.10	⑩ History はHis story	p.34	⑱ 敬愛する人	p.59
③ 人口問題	p.16	⑪ もっとも恐ろしいもの	p.38	⑲ モーツァルトの作曲法	p.62
④ すべて需要と供給	p.17	⑫ 国栄利は国英理	p.45	⑳ 万能パスポート	p.67
⑤ 大学医局は公園	p.20	⑬ 裸の王様	p.46	㉑ モーツァルトのオペラの聴き方	p.68
⑥ 留学生はスパイ	p.21	⑭ ヨード剤の深謀遠慮	p.50	㉒ モーツァルト後期3大交響曲の聴き方	p.69
⑦ 移植医療の発展	p.24	⑮ 診療・研究・教育	p.51	㉓ 笑う人より、笑われる人	p.72
⑧ 秦野草 vs 河野一郎	p.25	⑯ 日本の大学の国際レベル	p.57	㉔ 後書き	p.73

PROFILEプロフィール

秦野 寛

ご挨拶



プロフィール

昭和24年

藤沢市生まれ

37年

藤沢市立長後小学校卒業

40年

藤沢市立長後中学校卒業

43年

神奈川県立湘南高校卒業

50年

横浜市立大学医学部卒業

58年

医学博士「緑膿菌性眼内炎の基礎的研究」
横浜市立大学医学部眼科講師

59年

留学 カリフォルニア大学サンフランシスコ校
眼科 Proctor Foundation
「角膜ヘルペスの基礎的研究」

平成 3年

横浜市立大学医学部眼科助教授

9年

ルミネはたの眼科院長（現在）

21年

横浜市立大学医学部臨床教授（現在）

専門

眼感染症、角膜移植術

学会主催

第25回日本眼感染症学会会長（横浜）
第42回日本眼感染症学会会長（横浜）

役員歴

日本眼感染症学会理事（現任）

日本角膜学会監事（現任）

緑膿菌感染症研究会運営委員（現任）

神奈川県腎アイバンク推進委員（現任）

日本眼科学会専門医制度委員

日本眼炎症学会理事

日本化学療法学会抗菌薬評価ガイドライン改定委員

日本眼科医会学術委員

神奈川県眼科医会学術担当理事

神奈川県支払基金保険審査委員

藤沢市眼科医会会長

(2016.12時点)

columnコラム

①湘南高校柔道部

自分は湘南高校の柔道部に卒業まで席をおいた。43回生である。横浜市大医学部時代二段を取り、東日本医科学生体育大会では軽量級個人戦で準優勝した。それが自分の柔道歴のせいぜいであつた。最近、私と同級の剣道部OBから気になることを聞いた。剣道部員は多く活発だが、柔道部には生徒が入部せず廃部同然だそう。柔道はオリンピックでは人気競技のはずなのに、どうしたことか。日本の学生は武道離れか。残念である。湘南高校は赤木初代校長の残した文武両道の精神が根強く、そのスピリットを明治41年生まれで2回生の父からもよく聞かされていた。父は剣道部だった。確かにその結果は具体的に実を結んでいる。武では夏の甲子園全国高校野球優勝、文ではノーベル化学賞の根岸英一先生の2件が象徴的である。おそらく、今の在校生には文でも武でも、やれば負けないというリアリティーがしみ込んでいるはずである。これは先輩の築いた伝統という絶大な財産だろうと思う。自分は何もできずに、日暮れて道遠く、高校時代も遠い遠い日になってしまった。

//裏を見せ表を見せて散るもみじ//

良寛

本誌は藤沢という都市部、無床ビル診療、個人眼科20年の小さな総まとめである。

この数年、学会で自分と親しい同世代の大学教授諸氏から、定年退官記念誌や記念著書をお送りいただくことが多くなった。それらは皆輝いている。その度、啄木の“友が皆 我より偉く見ゆる日よ ”の歌が脳裏に浮かんだ。自分は現在も臨床教授として角膜専門外来と研修医講義のために母校へ赴いているが、自院の院長としては定年がない。勤務医や大学教授であれば退官記念集や仕事整理を考えるタイミングでもある。そんなことも刺激になっての本誌である。

20年誌作成目的はいくつかある。第一は患者さんや医療関係者への診療実態の開示である。その他は職員の著作、受賞などの業績整理、社会活動や院内勉強会など各種イベントの紹介、懐かしい記念アルバム、院長の雑感、放言、妄想、さらに友人からの寄稿など種々の内容を盛り込んだ。主意は施設としてやっと20歳を迎えた今、皆さんへのお礼と我ら自身のお祝いである。

どんな事業体にも、継続にはコンセプト、志が必要である。それは名著からのフレーズではなく、自分の実績の積み重ねからしか生まれ得ない。ささやかでも整理反省せねばならない。直視には勇氣も必要だ。

改めて、心温まるメッセージをお寄せいただいた皆様、大変ありがとうございます。今後、自分に30周年があるかどうか、当院に50周年が来るかどうかわかりません。できれば来て欲しいし、本誌が将来の当院メンバーへの歴史的贈り物となることを願っています。お蔭様で20年が大過なく過ごせました。

改めて見ると独善的な小サクセスストーリーになった感も否めない。これも成人式を迎えて上気した若者の弁とご勘弁ください。冒頭は好きな良寛の歌です。自分は裏を見せて散ることはできない。御笑覧いただければ幸いです。

2017 年 1 月 10 日

秦野 寛

ルミネはたの眼科 医院理念
主条

内では和を持って尊しとなし、
外には優しさを持って旨とする

職員は「和」を持って、全員が心をつにし、同じ方向性で働く。
患者さんに対しては、総合的多面的「優しさ」を持って接する。
（日本初の憲法である聖徳太子「十七条の憲法」がベースです）



仕事は全員のためと思ってする。
全員とは患者、職員、自分自身である。

和を重んじ、欲、私心を捨てて、互いに協調する。
すべて皆の合議のもとに決定し、上司の指示を尊重する。
自分を含む全ての人のために、常に自発的に仕事に取り組む。



礼と身だしなみに注意し、自分の内と外を整える。

患者さんとは、お互いを尊ぶ「礼」を忘れずに、
人間対人間の対等な関係を築く。
挨拶は大きな声で自分から発する。
常に身だしなみに注意し、清潔な環境を作ることを心がける。



仕事では「知る、好む、楽しむ」の段階を登る。

過度に思い煩うことなく、楽しく働く。人はどうせいつかは死を迎える。
「知る」とは勉強の段階、「好む」とは仕事が解り好きになる段階、「楽しむ」とは
仕事楽しく自発的に体が動く段階である。知的好奇心が体を動かす（知動説）。
スタッフの役目は医師患者間の隙間を埋めることである。
患者さんのために良かれと創意工夫をし、自分独自の楽しい仕事世界を構築、発展させる。
どの職位も奴隷の仕事ではなく、管理者の仕事を中心にける。



医療は教育でもある。
目標は患者さん自身の病気理解に基づく自立安寧である。

患者さんは「十分な説明」を求めている。受講者でもある。それに答えるには
職員が勉強することが大切であり、知識、技術においてプロ意識が必要である。
患者さんに有るもの（可能性）、無いもの（限界）の境界を優しく示し、
疾患理解により無いものを諦め、事後の平安を得てもらうことが医療の本質的目標である。



彼（人と病）を知り、己を知れば百戦危うからず。
戦わずして勝つ。（孫子）

個々患者さんの全体像を熟知し、我々の力を理解した上で、対応することが重要である。
戦わずして勝つ工夫を。もの事は言い方ひとつ。
誠意を根底に、説明の仕方、話し方しだいで、トラブルも解決する。



医療では誠意が唯一の方策である。

医療の世界では、いかなる患者さんに対しても、
最終的には誠意しか通用せず、これ以外に方策はない。
誠意とは、善意を基本とし、だまらず、信頼を築く心である。

友人、先輩からのお祝いメッセージ

院長 秦野寛と特に関わりの深い友人、先輩からメッセージをいただきました。思い出の写真とともにご紹介いたします。

医師会の友人

藤沢市医師会会長
鈴木紳一郎 先生



「ルミネはたの眼科」開院 20 周年、誠におめでとうございます。

秦野先生は幼い頃長後にお住まいで、自分と小学校と大学医学部が同窓という特異な関係にあります。そんな関係から親しく感じていた秦野先生が、JR 藤沢駅の駅ビル（ルミネ）が開業して 10 年後の平成 9 年に、その 8 階に「ルミネはたの眼科」を開院されました。そしてはや 20 年が過ぎました。

秦野先生は、開院当初より患者様の不安に寄り添う優しい医療を心がけ、わかりやすい説明と丁寧な診療を続けて来られました。その結果多くの患者様の信頼を得て、今では、宿泊して秦野先生の診察を受ける為に遠路よりお見えになる患者様がいと伺っております。

秦野先生は、横浜市立大学医学部眼科助教授、同大学医学部臨床教授に就任され、後輩の指導にあたり、また、第 42 回日本眼感染症学会会長をはじめ、日本眼炎症学会理事、神奈川県眼科医会理事、藤沢眼科医会会長等を歴任され、地域医療の発展に努めて来られ、平成 23 年には神奈川県医師会学術功労賞及び川口賞を受賞されています。秦野先生には益々のご活躍をして頂きまして藤沢市医師会の活動を更に高めて頂きたいと思ひます。

秦野先生の益々のご健勝とご活躍を、あわせて「ルミネはたの眼科」の益々のご発展をご祈念申し上げます。

開院 20 周年、誠におめでとうございます。



前列左が鈴木紳一郎先生（藤沢湘南台病院にて）（藤沢）

医師会の友人

日本眼科医会会長
高野 繁 先生



医療法人湘陽会ルミネはたの眼科が創立 20 周年を迎えられましたことに、心よりお祝いを申し上げます。一口に 20 年と申しますが、理事長・院長である秦野寛先生がスタッフの方々と協力し、院長の理念である「内では和を持って尊しとなし、外には優しさを持って旨とする」をモットーに、継続的な努力を重ねられた賜物であると確信しております。

さて貴眼科の地域医療への業績には輝かしいものが数多くありますが、本日は秦野寛先生の眼科医療への貢献について、特筆すべき三つのことを述べさせていただきます。

一つには平成 17 年に第 42 回日本眼感染症学会を主催なさったことです。全国レベルの大きな学会を開業医が開催することは稀であり、私達眼科開業医に大きな夢を与えてくださいました。

二つ目は神奈川県眼科学会（下の写真参照）の設立にご尽力いただいたことです。平成 21 年に第 1 回目が開催されましたが、当時神奈川県眼科医会学術担当理事であった秦野先生の提案で実現しました。「神奈川県内に、より活性力のある学術事業を」という熱い思いが、理事会を動かしました。今年で 9 回目ですが、現在では県内で最も大きな眼科学会と発展しました。

そして、三つ目はこれらの眼科医療への貢献が評価され、平成 23 年に神奈川県医師会から学術功労者表彰をお受けになったことです。眼科医として眼科関連団体からの表彰はよくあることですが、医師会からというのはめずらしいことです。眼科医療にとどまらず、医療人としての社会貢献が認められたものと思われまふ。

新たなる 10 年をめざして、貴眼科がさらに発展することを祈念いたしまして、お祝いのことばとさせていただきます。おめでとうございます。



右から 2 番目が高野 繁先生（横浜）

学会の友人

愛媛大学学長
大橋裕一 先生



ルミネはたの眼科開院 20 周年、まことにおめでとうございます。「光陰矢の如し」とはよく申しますが、先生にとって本当にあつという間の 20 年ではなかったでしょうか。開業医へ転身されてからの先生の素晴らしいご活躍に心からの敬意を表したいと思います。

先生とは昭和 50 年卒業の同期であり、眼感染症の道を志し、留学先も同じプロクター眼研究所ということで若い頃より大変仲良くしていただきました。先生は細菌、僕はウイルスと専門こそ異なってはいましたが、眼感染症研究の面白さ、楽しさを語り合ったことを昨日のここのように思い出します。教官時代には、横浜市大のお家芸であった「緑膿菌」による角膜炎あるいは眼内炎モデルを用いて現在にも通用する数多くの知見を見出されており、そのご慧眼に改めて感服する次第です。

先生がご開業されると聞いた時、一抹の寂しさが僕の頭を過ぎりましたが、そんなことは全くの杞憂でした。眼感染症そして角膜臨床への情熱を絶やすことなく、まさに physician scientist として最上のレベルの医療を提供してこられたからです。今後とも、「内では和、外には優しさ」という患者本位の診療理念を貫かれてください。古希まではまだ少し時間があります。お互い頑張りましょう！



左から3人目が大橋裕一先生(松山)

個人開業医の先輩

江口眼科病院院長
江口秀一郎 先生



秦野先生、御開業 20 周年おめでとうございます。

秦野先生の依頼で個人開業医の先輩施設からとの副題を付けましたが、秦野先生は眼科の先輩であるのみならず、白内障術後感染症予防研究の先駆者でもあり、白内障術後感染予防の仕事を通じて親しくお話をさせていただくようになりました。お話をさせていただくと、まじめなお話の中にも企てざる微妙なユーモアを感じられ、さすが白内障術後感染症の起炎菌をリストアップした眼科古典ダジャレ、「球球ブ腸にアクネス」の原作者と、感心(?) 共感するところが多々ございました。私は函館在住ですが、我が家の出身が神奈川県伊勢原市で同じ神奈川県、先生はシェパード私は黒ラブと犬好き、留学先も同じサンフランシスコの UCSF と様々なご縁があり、日ごろ多岐にわたるご指導をいただいております。昨年の夏に突然お電話をいただき、「飛鳥」の船旅で函館に來たので病院を見学したいと連絡をいただきました。空路や陸路で病院見学にいらっしゃる方は珍しくありませんが、わざわざ函館まで海路で見学にいらした方は初めてで、電話でお話しさせていただき先生のお顔を思い浮かべていると、アスカかと思ったら今日だった、というダジャレが浮かんできたのをお許し下さい。先生とルミネはたの眼科の益々のご盛業をお祈り申し上げます。



右端白衣が江口秀一郎先生(函館)



ルミネはたの眼科 医師紹介



ドクター集合 前列左から山添克弥先生、秦野 寛院長、山添響子先生
後列左から加藤陽子先生、西澤きよみ先生、後藤さや香先生、藪下麻里江先生

- ①医学部の卒年
- ②興味ある眼科領域
- ③趣味
- ④今後したいこと
- ⑤当院20周年へのメッセージ

秦野 寛 院長

- ①昭和50年卒業 ②眼感染症、角膜疾患、角膜移植 ③音楽、船、馬
- ④ニュージーランドでのワイルドライフと日本での診療ライフを半々で行き来すること。眼科診療での人工知能(AI)と人智の絡みを可能な限り見届けたい。
- ⑤いままで、皆さんへの感謝に尽きます。これから、診療器具などの文明(横着)の前進は当たり前、医療の文化(忍耐)を皆で深めていきましょう。

山添克弥 副院長

- ①平成18年卒業 ②角膜、再生医療 ③スポーツ観戦、読書 ④スポーツ
- ⑤開院20周年おめでとうございます。院長先生には日頃から専門知識や技術だけでなく、医療に対する考えや姿勢についても勉強させて頂いております。私も角膜移植を専門としておりますので、アイバンク活動を含め地域の移植医療にも貢献していきたいと考えています。今後とも宜しくお願い致します。

column コラム

②私の1週間

同名のロシア民謡がある。これにちなんで、たまにだが1週間の各曜日に全く別次元の立場になった自分を仮想してみることにしている。そして、その立場ならその日に、自分はどう考え、どう行動し、どう話し、どう演説するかを想像するのである。それなりに勉強しなければ自分の意見は発せられない。仮想とはいえ義務と課したら相当ストレスである。

月曜日は国連事務総長になる。火曜日は日本国総理大臣。水曜日は現実に仕事オフなので、退職後自由人である。木曜日は日本医師会会長、金曜日はルミネはたの眼科院長、土曜日は単なる一社会人、日曜日は犬である。なかなか、徹底できていないのが現状だが、人のことだけ考える日、自分のことだけ考える日、両方混ざっている日、みんなあってよいように思う。日曜日は実現率が高い。2匹の犬と歩くので、3匹の犬が歩くことになる。3匹互いに思いが通じているだろうか。



鍵谷雅彦 先生

- ①平成元年卒業 ②Immunology、眼のhomeostasis維持機構
- ③マラソン、旅行 ④自分を戒め、日々の眼科診療に精一杯勤めたいと思います。
- ⑤20周年おめでとうございます。私は月1回、外来をお手伝いさせていただいております。院長先生のご専門であります角膜や感染症について、今後もご教示いただけたら幸いに存じます。今後とも何卒よろしくお願い致します。

瀧 佳子 先生

- ①平成6年卒業 ②緑内障
- ③テニス ④テニスの4大会の観戦に行くこと
- ⑤20周年おめでとうございます。微力ながら少しでも地域医療に貢献できればと考えておりますので今後とも宜しくお願い申し上げます。

加藤陽子 先生

- ①平成7年卒業 ②眼感染症
- ③演劇鑑賞 ④ピアノ、ギターを習いたいです。
- ⑤20周年おめでとうございます。いつもスタッフの皆さんに細かくサポートしていただき、ありがたく思います。月に数回であります、これからも患者さんのお役に立てるよう頑張ります。

西澤きよみ 先生

- ①平成7年卒業 ②眼感染症、緑内障 ③音楽鑑賞、美術館めぐり ④海外旅行
- ⑤開院20周年誠にありがとうございます。私は12年ほど前に横浜市大の角膜専門外来で秦野先生に指導頂いたご縁がきっかけでクリニックに勤務し始めました。勤務当初、赤ちゃんからご高齢の方まで患者さんの多さと、前眼部から眼底まで様々な疾患の方が訪れる大学病院にもひけをとらないクリニックだという驚きとで気が引き締まった記憶があります。それから10数年、電子カルテ化、最新検査機器の導入など年々アップデートされていくクリニック、患者さんのために日々スキルアップしていくスタッフの姿も目にしてきました。そして何より、勝手に私の師と仰ぐ秦野先生の学究肌、知識と経験に基づいた診療、温かいお人柄が浸透した20年ではないかと、思っております。これからもクリニックの益々の御発展を御祈りいたします。

後藤さや香 先生

- ①平成10年卒業 ②角結膜 ③読書、芸術鑑賞 ④世界の美術館めぐり、陶芸
- ⑤開院20周年おめでとうございます。院長先生には日頃いろいろご配慮いただきましてありがとうございます。明るいスタッフの皆さんや先生方と共に、日々診療できることに感謝しています。地域医療に少しでも貢献できていましたら幸いです。はたの眼科の今後のますますのご発展をお祈り申し上げます。

藪下麻里江 先生

- ①平成18年卒業 ②一般
- ③読書、ヨガ ④ていねいな生活(体力作り、バランスよい食事など)
- ⑤はたの眼科は患者数も多く、ノンストップ外来ですが、できる限り患者さんの気持ちにそえるよう精進していきたいのでよろしくお願いします。

山添響子 先生

- ①平成18年卒業 ②前眼部・角膜 ③バレエ鑑賞
- ④仕事育児の両立!長期の海外旅行!?子育てに余裕ができれば、またオペもやりたいです。
- ⑤もう20年経った!!ことに驚きました!!常に勉強し、学会でも活躍しプロGRESSし続ける院長のそばで勉強できることは、本当に幸せなことです。医師としての姿勢も尊敬しています。今後とも夫婦共々ご指導宜しくお願いします。

ルミネはたの眼科 20年の歩み

● 1997年

1月10日 ルミネはたの眼科開院
医師1名、事務長1名、
職員5名、他2名
場所 JR藤沢駅ビル
ルミネプラザ8階

5月21日 角膜移植術開始
顕微鏡Zeiss OPMI MDO

6月18日 白内障手術開始
手術装置Legacy導入
ホームページ開設

● 2001年

5月7日 ルミネプラザ7階に
拡張転院・再開院
外来、診察室、
手術室全面新装

● 2003年

4月23日 医療法人湘陽会設立

5月1日 医療法人湘陽会
ルミネはたの眼科開業

10月3日 白内障手術装置 Millenium導入
ライカM841EBS手術顕微鏡導入

● 2006年

1月 東海道
カンファランス

2月 準備会

4月7日 第1回 東海道
カンファランス

● 2011年

2月 白内障手術装置
Signature導入
手術顕微鏡Zeiss
OPMI Lumera T導入

11月23日 秦野寛院長が
「川口賞」を受賞

● 2014年

2月21日 超広角走査レーザー
「オプトス200Tx」導入

4月22日 診察券変更

● 2016年

1月 硝子体注射開始

4月1日 山添克弥副院長
白内障手術開始

1997年 (平成9年)	1998年 (平成10年)	2001年 (平成13年)	2002年 (平成14年)	2003年 (平成15年)	2005年 (平成17年)	2006年 (平成18年)	2007年 (平成19年)	2011年 (平成23年)	2012年 (平成24年)	2014年 (平成26年)	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)
	1998年 7月1日 有限会社ルミネ コンタクト発足		2002年 9月3日 ホームページ リニューアル		2005年 7月8・9日 第42回日本眼感染症学会 主催 10月 7階拡張工事(会議室新設) 視力検査4台導入 12月1日 ルミネコンタクト 医院から分離独立 コンタクトコーナー、 会議室等新設		2007年 1月10日 開院10周年 「10年の歩み」 発行 7月1日 セコム 電子カルテ導入		2012年 1月10日 開院15周年 「15周年記念写真集」 発行		2015年 1月9日 「オプトス200Tx」による 蛍光眼底造影検査開始 6月12日 白内障手術トーリックIOL開始 6月23日 ホームページリニューアル 8月13日 診察室、検査コーナー改装 11月1日 山添克弥副院長が慶應義塾大学 眼科Best Paper Awardを受賞 12月 パターンスキャン レーザー光凝固装置導入		2017年 1月10日 開院20周年 3月 硝子体手術装置 Constellation、 広角観察装置 Resight 導入

■開院

1997年1月10日(金)

ルミネはたの眼科開院

医師1名、事務長1名、職員5名、他2名

場所：JR藤沢駅ビル ルミネプラザ8階

平成9年1月10日開院

JR藤沢駅ビル・ルミネプラザ8F(車椅子可)

ルミネ
はたの眼科

HATANO EYE CLINIC
(ルミネコンタクト)

医学博士・学会認定眼科専門医
院長 秦野 寛

診療時間：

午前9:30~13:00 午後15:00~19:00
(土曜は17:00まで) 日曜11:00~16:00

休診日：水曜、祭日

0466-50-0811

ファックス 0466-50-0819

e-mail: hatano@shonanin.com
インターネットホームページ: www.shonanin.com/hatano/eye.html

診療内容

●眼科一般
●角膜専門外来
●コンタクトレンズ外来
●専門領域:
白内障・角膜疾患
感染症・アレルギー
●コンタクトレンズ:
各種使い捨てレンズ
●手術応需(院内、院外)
白内障眼内レンズ・角膜移植 他
日帰り手術
病院オープンシステム
(連携病院で入院手術)

＜御案内＞
JR藤沢駅 徒歩10分
バス 徒歩5分
小田急線 徒歩10分
小田急線 徒歩10分

(当時の新聞折り込みチラシ)

■主催学会

2005年7月8日(金)~9日(土)

第42回 日本眼感染症学会
(会長 秦野寛)

会場：パシフィコ横浜 会議センター

和

フォーサム・イン横浜

第42回 日本眼感染症学会
第25回 日本眼薬理学会
第39回 日本眼症学会
第48回 日本コンタクトレンズ学会

会期
2005年7月8日(金)~10日(日)

会場
パシフィコ横浜 会議センター
http://foursome.jthcom.co.jp

一般議題締切日:2005年3月31日(木)
事前登録締切日:2005年5月10日(火)

■受賞

2011年11月23日

神奈川医学会学術功労賞「川口賞」(平成23年度)
を秦野寛院長が受賞

受賞理由

ライフワークの「眼の感染症の研究」業績に対して。神奈川県眼科医会理事会の推挙をいただき、県医師会より授与された。

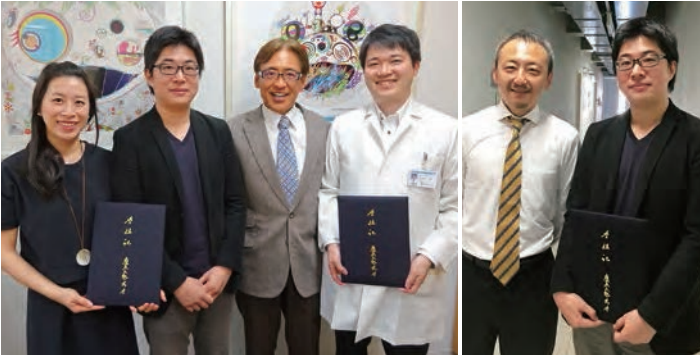


2015年11月1日

山添克弥副院長が慶應義塾大学眼科
Best Paper Award基礎研究部門(平成
27年)を受賞

受賞論文

Yamazoe K, Yoshida S, Yasuda M, Hatou S, Inagaki E, Ogawa Y, Tsubota K, Shimmura S: Development of a Transgenic mouse with R124H Human TGFBI Mutation associated with Granular Corneal Dystrophy Type 2. PLoS One 2015





診療内容



専門外来のご案内

(1) 角膜専門外来

- ・顕微鏡、血液検査などによる感染症や免疫疾患等の診断・治療
- ・抗原検査キットによる診断（アデノウイルス・ヘルペスウイルス）
- ・角膜移植術（水疱性角膜症、円錐角膜、角膜混濁、角膜潰瘍、角膜変性症等）
- ・特殊コンタクトレンズの処方（円錐角膜等）
- ・オルソケラトロジー（夜間装用コンタクトレンズによる近視矯正治療）

(2) ドライアイ専門外来

- ・涙液検査、生体染色検査、BUT検査等による診断
- ・点眼治療、涙点プラグ挿入術、外科的治療（結膜弛緩症手術、涙点閉鎖術等）

(3) 眼底疾患専門外来（糖尿病網膜症・加齢黄斑変性 など）

- ・最新の診断機器である超広角走査レーザー顕微鏡（眼底カメラ;OPTOS）やOCT、蛍光眼底造影等による専門性の高い診断
- ・パターンスキャンレーザーを用いたレーザー治療（糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、網膜裂孔等）
- ・ステロイド・抗VEGF薬硝子体注射（加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫等）
- ・硝子体手術（黄斑前膜、黄斑円孔、硝子体出血・混濁等）

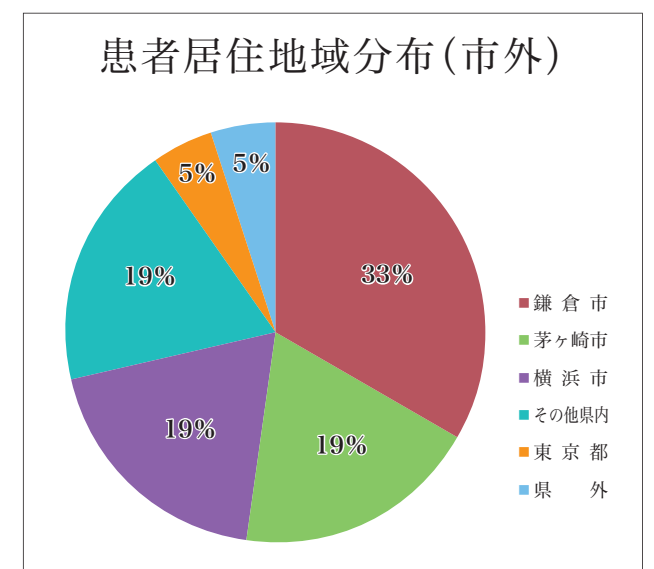
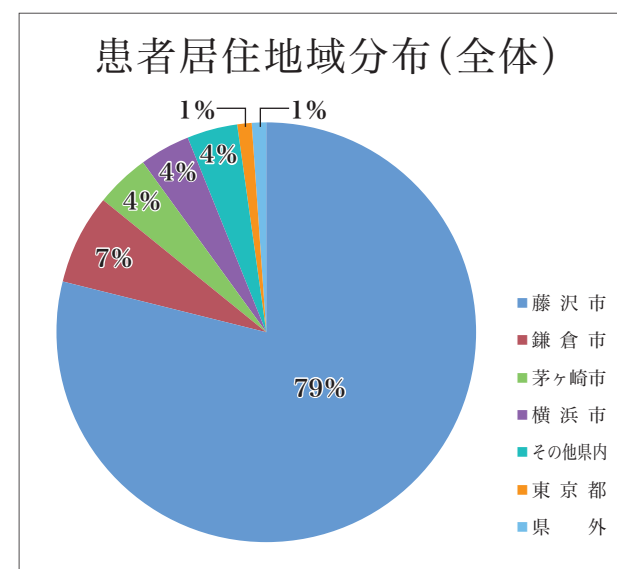
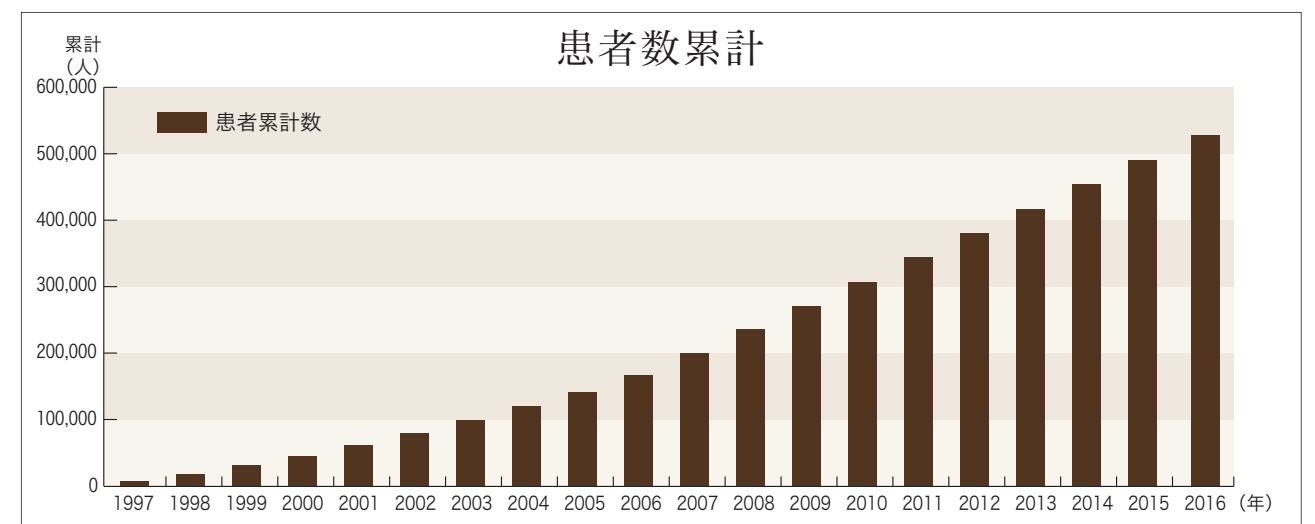
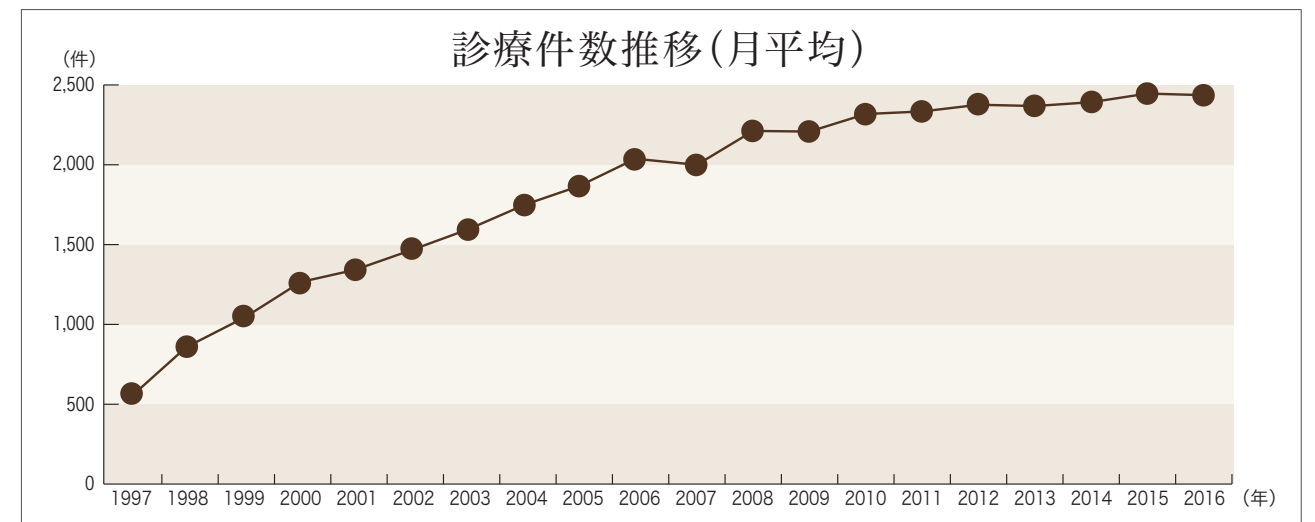
(4) 緑内障外来

- ・眼圧検査、隅角検査、眼底検査、OCT、視野検査（ハンフリー視野計、ゴールドマン視野計）等による診断
- ・薬物療法、レーザー治療（LI、SLT）、外科的治療

日帰り白内障手術をはじめ、翼状片、霰粒腫、結膜弛緩などの外眼部手術、専門領域である角膜移植手術のほか、角膜専門外来や糖尿病網膜症をはじめとする眼底外来、ドライアイ外来など専門外来を医師3人体制で充実させています。



20年間の診療実績



ルミネはたの眼科統計データ

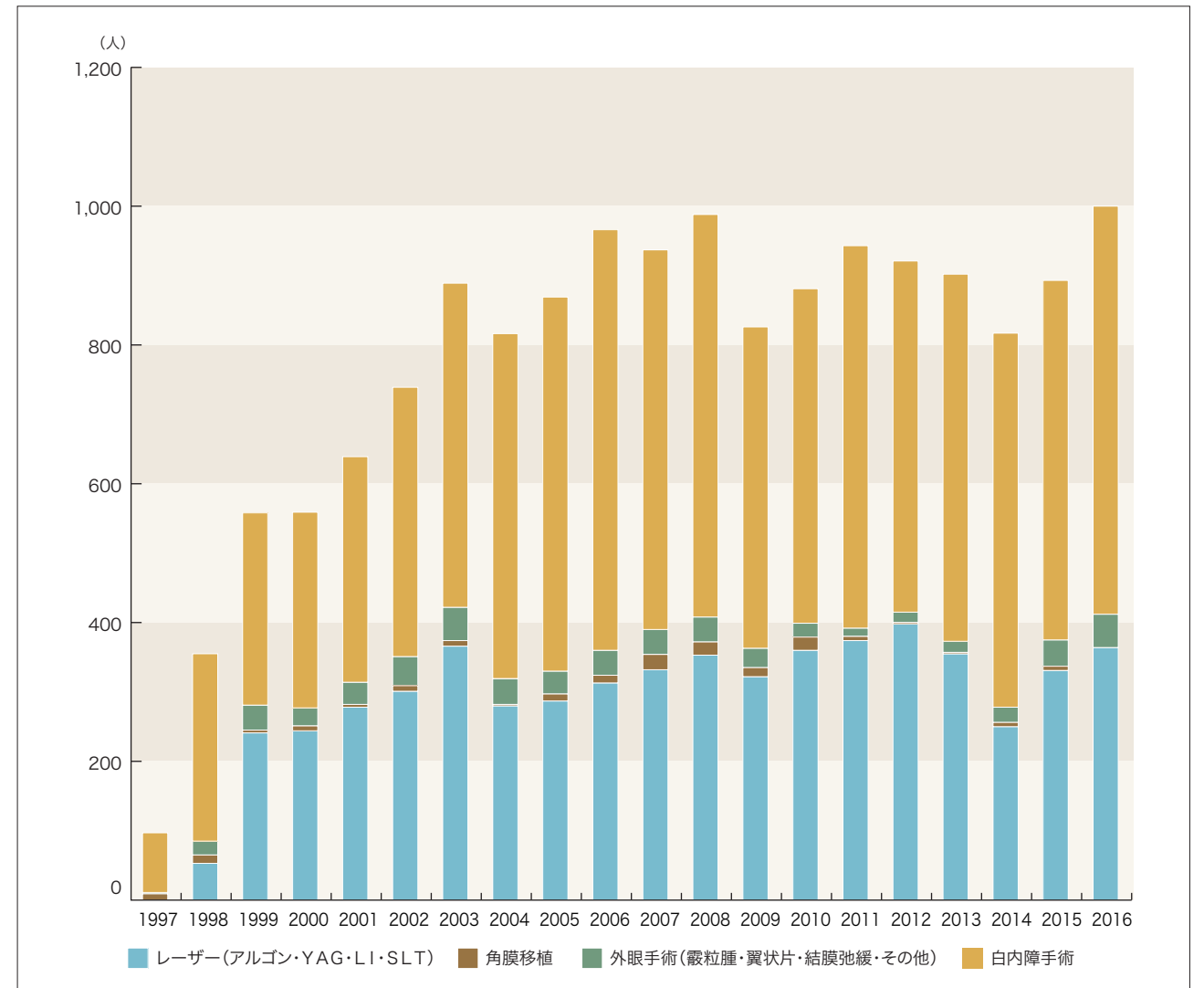




20年間の診療実績

白内障手術、角膜移植、外眼手術、レーザー実績

	白内障	角膜移植	外眼手術				レーザー			
			霰粒腫	翼状片	結膜弛緩	その他	アルゴン	YAG	LI	SLT
1997	86	9	0	2						
1998	270	12	11	4		5	42	7	4	
1999	277	4	16	6		14	110	131	0	
2000	282	7	21	3		2	96	127	21	
2001	325	4	23	5		4	115	159	4	
2002	388	8	23	7		12	122	174	5	
2003	467	8	32	8		8	138	218	10	
2004	497	2	17	8		12	98	176	6	
2005	539	10	13	9		11	99	172	16	
2006	606	11	16	4		6	68	227	1	17
2007	547	22	17	4	1	14	60	256	3	13
2008	580	19	18	5	2	11	53	286	5	9
2009	463	13	14	5	9		50	266	3	3
2010	482	19	16	2	2		66	275	2	17
2011	551	6	5	5	2		90	272	1	11
2012	506	1	2	10	3		78	235	2	5
2013	529	2	5	8	3		54	295	4	2
2014	539	6	6	2	9	5	29	219	0	2
2015	518	6	16	4	10	8	80	248	2	1
2016	588	1	3	7	1	37	94	266	3	1
計	9040	170	274	108	42	149	1542	4009	92	81



ルミネはたの眼科統計データ

column コラム

③人口問題

「私の1週間」の記事でも書いたが、月曜日、自分は国連事務総長となったつもりで世の中を考える。最近では人口問題が最大の懸案だ。時々、世界の人口グラフをまじまじと見る。恐ろしい。増加のスピードは年々強まっている。地球人口100億人はすぐそこである。食料、飲料水は絶対足りない。山国日本の清水を求めて外国人が無法に大量入国する可能性は大である。人口増加を誰が心配し、制御するのだろうか。指をくわえているだけか。温暖化は大変な議論が続いている。しかし、なぜか人口問題を口にしない。

あえて倫理性を排した冷徹、現実の話をしたい。人口減少法は何だろうか。戦争か。世にABC兵器がある。Aはatomic;核兵器、Bはbiological;生物兵器、Cはchemical;化学兵器である。AとCによる人口減少数はそんなに多くはない。最も大量に減少するのはBであろう。現実的なのは新型の高病原性インフルエンザだ。例えば致死率50%のH5N1型である。世界的に蔓延したら相当数の人が落命する。過去のスペイン風邪、ソ連風邪などのように世界大戦を終焉させるくらい的大量死が起こる。ワクチンの製造には流行後半年かかる。Bが大量の人口減少をもたらす最大の可能性だと予感する。「感染列島」という国策映画があった。疫病に備えた国だけが生き延びる。国防はドンパチだけではない。

column コラム

④すべて需要と供給

世の中は全てが需要と供給で説明できる。倫理、男女、経済、医療など例外はない。需給バランスをとるのが、社会の上位の人たちの仕事になる。また、価値は全てが希少価値である。まず“倫理”で考える。仮に世の中全員がイエスキリストと同様の聖人だとしたらどうだろうか。世に小説やハリウッド映画は生まれず、喜びも悲しみもない、つまらない世の中になる。人は単調で平凡な世に耐えかねて、正義感も志も持てずに生きがいや失い、大半は自殺するだろう。世の中、人格も程々の需給バランスが必要である。“男女”では過去には仲人がある種の役割を果たしていた。結婚率の低い昨今、高次のマッチングが望ましい。“経済”は正に、需要と供給である。経済評論家が何を言おうが、所詮落ち着くところに落ち着くだけで、何をやっても大差はない。なるようにしかならない。失われた20年といわれた。毎年元日の新聞は、今年こそ明るい兆し、景気は踊り場などと騙され続けた。確実にデフレ解決人は戦争なのだろうか。もしもの第二次朝鮮動乱でインフレになるのだろうか。最後に、“医療”である。一つだけ言及すれば、受診時の待ち時間である。これも需給バランスの問題だ。個々施設での解決には限界がある。供給の加減は医院の仕事だが、需要の方は患者さん側の問題である。医者と患者の両サイドの幸せのためにも良い需給バランスでありたい。



当院における角膜移植

白内障の日帰り手術はすでに30年近く前から全国的に実施されてきた。また最近網膜硝子体手術も限定した症例で日帰り手術が普及し始めている。しかし、角膜移植は例数も少ないためか、日帰り手術については目立った報告がなされて来なかった。

当院では、開院以来角膜移植を日常的に実施しており、15年分の結果を2012年2月の日本角膜移植学会で報告した。ある意味、学会の審判を仰ぐ意味もあり当院での全症例の結果をまとめて報告した。結論として、日帰り手術による不都合は全くなかったと考えている。この時の、学会発表スライドを以下に掲載する。眼球摘出実績を含むアイバンク活動および手術内容とその結果をまとめたものである。



かながわ腎・アイバンク幹旋による角膜移植眼数 ※かながわ健康財団腎・アイバンク推進本部

年度	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	合計
神奈川県	91	103	96	111	61	100	57	68	50	36	97	85	85	108	107	98	114	100	105	97	1,769
はたの眼科	9	12	4	7	4	8	8	2	10	11	22	19	13	19	6	1	2	6	6	1	170
比率	9.9%	11.7%	4.2%	6.3%	6.6%	8.0%	14.0%	2.9%	20.0%	30.6%	22.7%	22.4%	15.3%	17.6%	5.6%	1.0%	1.8%	6.0%	5.7%	1.0%	9.6%

「日帰り角膜移植 15年157眼の小括」

第36回日本角膜学会総会・第28回日本角膜移植学会にて発表（2012年2月25日）

1

日帰り角膜移植 15年157眼の小括

秦野 寛¹⁾ 山添雪子^{1) 2)}
1) ルミネはたの眼科 2) 東京歯科大眼科

アイバンク活動
角膜移植状況

JR 藤沢駅ビル ルミネプラザ

2

アイバンク角膜の摘出出動

期 間: 平成9年～23年(15年間)
回 数: 63回 (4.2回/年)

場 所: 葬儀社38回、自宅 23回、
病院1回、警察署 1回
自治体: 藤沢市54、茅ヶ崎市8、鎌倉市1

3

角膜摘出と処理

1. 採血(鎖骨下静脈) 1～5cc
2. 全眼球摘出 → 強角膜摘出
3. 保存液: Optisol・GS
4. 保存液の細菌培養: 全例で陰性

移植片使用直前にOptisol・GS液一部をトランスワープ綿棒に採取して培養

4

日帰り手術の背景

長所	支援
1. 生活環境の持続 寝室、トイレ 家族の介助	近隣病院入院 11回 至近ホテル宿泊 3回
2. 認知症の防止 高齢>若年	
3. 経済負担軽減	
4. 環境耐性菌の低頻度	

徒歩5分のホテル

5

角膜移植症例

期間: 平成9年1月～23年12月(15年間)

患者: 125名 (男49名、女76名)

年齢: 26～90歳 (平均69.9歳)

手術回数(延べ眼数): 157回・眼

7

移植術式の内訳

Allograft
PKP (新鮮角膜): 123
DALK (新鮮角膜): 23
LKP (保存角膜): 5

Autograft
回転 (自己角膜): 6

合計(延べ) 157 回・眼

9

Rose-K2 装用例
0.4xGL 1.2xHCL

2011/11/07 0031211010

11

続発合併症

拒絶反応 34眼/157眼(22%)
初発時期 1～58ヶ月後(平均12ヶ月)
続発緑内障 17眼/157眼(11%)
失明(VA:0) 8眼/157眼(5%)

感染症
細菌感染 5眼/157眼(3%)
ヘルペス再発 6眼/157眼(4%)

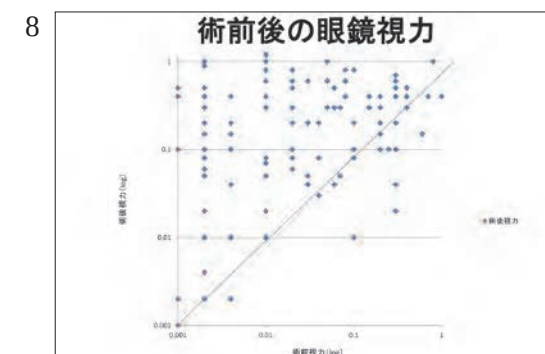
13

Graftのヘルペス再発(樹枝状・地図状)

2009-01-29 00314-0234 2010-01-18 001160024
2007-10-20 002140010 2008-11-24 001000413

6

疾患	計
水疱性角膜症	37
再移植	33
白斑	31
炎症後	35
変性	21
合計	157 眼



10

Rose K2 による矯正視力

眼	眼鏡矯正	HCL矯正
1	0.4	0.7
2	0.5	1.2
3	0.4	0.6
4	0.2	0.7
5	0.3	0.9
6	0.6	1.2
7	0.6	1.0
8	0.6	1.2
9	0.3	0.5
10	0.4	0.6

12

Grfatの細菌感染

2010-01-17 002140010A
2011-03-24 001160024
2008-01-20 002140010
2011-01-18 001000413

Chrystaline ker
Ealine keratopathy
コリネバクテリウム感染 培養陰性

14

まとめ

アイバンク

1. 有資格非医師による眼摘制度の必要を感じた。(眼科医師の減少・疲弊)
2. 日帰り故のトラブルは1件もなかった。
3. 今後は外眼手術とも言えるDALK適応を重視したい。(拒絶・緑内障からの自由)
4. 病診連携が重要である。





臨床教授として

眼科研修医講義（横浜市大附属病院、横浜市大センター病院）

9年前（2008年）から大学2病院の眼科研修医に対して、毎月1度ずつ自分の眼科専門分野について1時間余りのクルズ（小講義）を行っている。下記は最近のカリキュラム内容である。

目的は研修医の日常診療の基本手技習得と眼科専門医試験対策を兼ねている。

	テーマ	内 容
4月	角膜炎総論	感染 vs 非感染
5月	角膜潰瘍	細菌 真菌 アメーバ
6月	角膜ヘルペス	HSV VZV 他
7月	感染性結膜炎	細菌 ウイルス クラミジア
8月	涙器・眼窩疾患	流涙の鑑別 涙嚢炎 涙小管炎 眼窩蜂巣炎
9月	眼内炎総論	外因性眼内炎 白内障術後眼内炎 疫学 診断 予防 治療
10月	ドライアイ	病態 分類 診断 治療
11月	眼の免疫異常	アレルギー性結膜炎 免疫原性角膜炎
12月	内因性眼内炎	細菌性 真菌性
1月	結膜の変性と腫瘍	コンタクトレンズと3眼合併症
2月	眼瞼疾患	炎症 腫瘍 形態異常
3月	角膜手術	角膜移植 屈折矯正手術 角膜穿孔治療法



2015.4.14付属病院医局



2015.4.23センター病院会議室



2016.10.11付属病院医局



2016.10.14センター病院会議室

column コラム

⑤大学医局は公園

医師生活40年余になる。ほぼ前半は大学医局に所属していた。開業してから今までも、月4コマは大学へ無交通費、無報酬で非常勤講師、臨床教授として勤務している。両サイドから見ているためか、大学時代よりも大学が見えるようになった。自分の大学感として“大学医局とは公園のような所”だと思う。主任教授は常勤の主任管理人であり、あるコーナー、たとえばチューリップ園を担当している人である。その他、准教授や講師は別の菖蒲園、葉牡丹園などを担当している。時代が変わり、スタッフがかわっても、市民（患者、地域医師）が憩い（診療、症例検討）を求めてやって来ては、また去って行く。公園はあり続ける。従って、ある花木のコーナー（専門クリニック）には苗植えや水撒きに通ってくるボランティア（非常勤医師）も大勢いてよい。大学とはクリニックである。常勤スタッフでカバーできる臨床範囲は高が知れている。教授選は全国公募がなされる。非常勤講師も出身大学や医局を超えて、地域公募、全国公募があつてよい気がする。開かれた公園にするため、皆が競って参加すればいい。たとえ、何歳でも、どこに（開業、勤務）いても、研究して業績を作り、主任管理人を訪ねて「〇〇大学非常勤講師」を名刺に刷り込んで欲しい。医者は一生医学者である。大学側からは、こんな発想は浮かばぬかもしれない。

column コラム

⑥留学生はスパイ

最近、大学の若い先生方の留学熱が冷めている。残念なことである。インターネットが普及して、かなりの情報は地球を駆けずり回らなくとも、ある程度取れる時代ではある。また、日本の研究設備やレベルも外国に引けを取らない面がある。しかし、自分が留学から帰ってちょうど30年経て感じることもある。自分の基本的な考えは、国家レベルで言えば、留学生はスパイとしての機能と使命を帯びているという事実だ。留学は単に自分のほく付けや昇進のために英論文を作りに行くためではない。一人でも多くの日本の将来を担う若い人が、外国の最先端の研究施設の内部に入り込んで状態を視察し、支配階級や管理職の思想や発想に直接触れてくことに意味がある。それには、ある程度の期間外国に住んで、彼らの日常に触れなければ効果は上がらない。欧米、ロシア、中国など主要国にできるだけ多くの留学生が入り込むべきである。インターネットや国内の国際大学に留学の代わりはできない。



20周年記念座談会「神奈川の角膜移植を考える」 ～日本の臓器移植全体の問題点と角膜移植～



ルミネはたの眼科院長
秦野 寛氏

後藤眼科医院院長
後藤英樹氏

ルミネはたの眼科副院長
亀田総合病院眼科医長
司会 山添克弥氏

北里大学病院眼科准教授
神谷和孝氏

■角膜移植・アイバンクの現状

山添 本日はお集まりいただき誠にありがとうございます。今回は「神奈川の角膜移植を考える」というテーマで先生方に自由に懇談していただきたいと存じます。まず、秦野先生からお願いします。

秦野 私は振り返ってみますと、大学時代から含めて神奈川県アイバンク活動に40年近く関わってきました。その夢と反省を含めての展望など、県レベルだけでなく日本全体の移植まで皆さんと話しあいができれば良いと思います。

藤沢には湘南アイバンクという篤志家の団体があり、毎年1回アイバンクチャリティーコンサートを開催しています。その際、角膜移植についての講演があるのですが、この数年来、神谷先生、後藤先生と私が交代でさせてもらって来たので、皆で改めて、ゆっくりと語り合いたいです。テーマにこだわらず、自由に進めていただければ有意義な時間になるかと思います。

山添 皆さんは角膜移植に実際に携わってこられた角膜の

専門家でいらっしゃいます。

最初は総論的に、国内の角膜移植やアイバンクの現状について、神谷先生はどんな感想をお持ちでしょうか。

神谷 国内全体の現状を概観すると、使用角膜は年々海外からの輸入角膜が増えていて、対照的に国内のアイバンクから提供される角膜は減っているようです。残念ながら海外依存度が上昇しているのが現状です。北里大学でも、最近では、角膜内皮移植が増えてきたこともあり、海外角膜に需要が移行しています。

後藤 国内では足りない、海外では他国へ輸出するほど余裕があるということですね。

秦野 先ず献眼数で日米の現状を比較すると、差はものすごいですね（図1）。驚きです。また角膜以外の他臓器（腎臓・肝臓・心臓・肺臓）の2015年のデータ（図2）をみると、臓器提供数は、日米比較で9,079対91の大差です。実際の移植数も、アメリカの場合は24,980で、日本は315です。2桁違うんです。日米でこれだけの大差があるのです。

後藤 移植医療全体を見ても、他の臓器移植も海外に比べると、その実績は非常にお粗末ですね。角膜は成功率の高

い臓器移植ですから、角膜を盛り上げれば、他の臓器移植への援護射撃になると思います。

山添 日本のアイバンクの人材面はどうでしょうか。

秦野 神奈川、千葉、東京のアイバンクではコーディネーターが常勤スタッフで3、4人いるようですね。ただ、地方の小規模県では予算の問題もあり、そうはいかないようです。また、幹旋される角膜の質と価格はアイバンク間で差があるようです。

神谷 アイバンクの予算はどんな内訳なのでしょう。

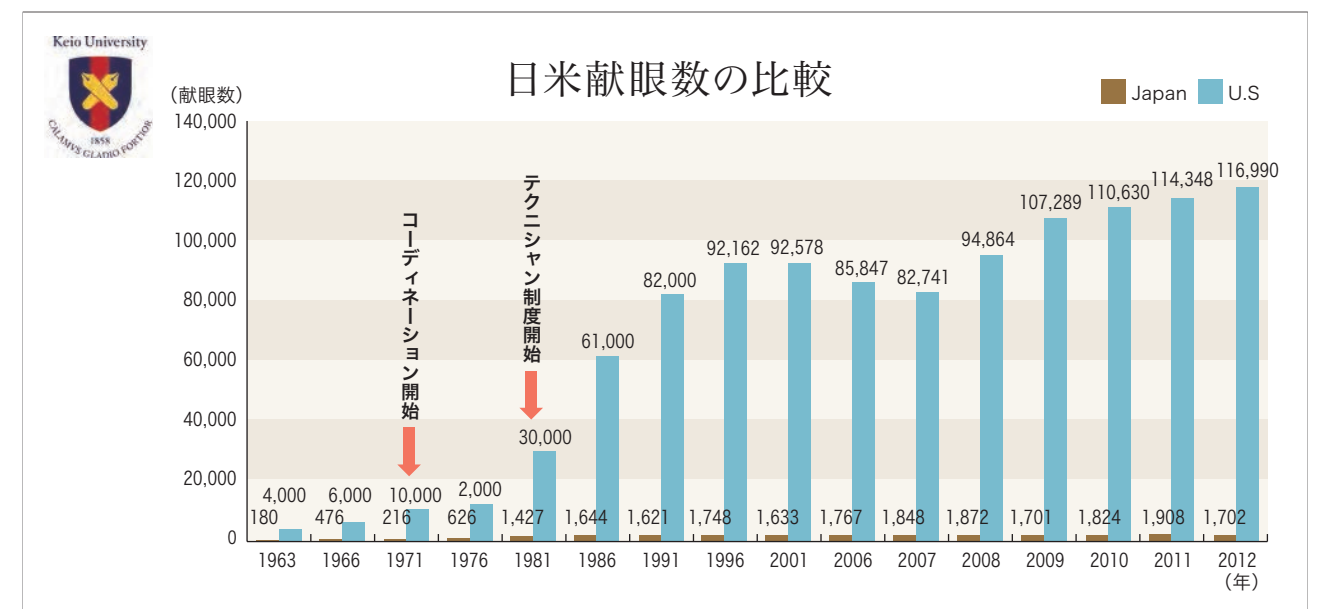
秦野 角膜幹旋料、県の予算、寄付などのようです。とにかくアイバンクはファイナンスが非常に重要です。坪

田先生の「アイバンクへの挑戦」という本に詳しく書いてありますが、アメリカではアイバンク自体がお金を稼いでいるし、寄付も多くてプロスタッフの雇用が成り立つみたいで、うらやましいです。木下茂先生がおっしゃっていましたが、角膜移植手術の保険点数をもっと上げてもらい、それを通じて各アイバンクの財務状況を好転させていくことが必要ですね。

■角膜の“量”と“質”

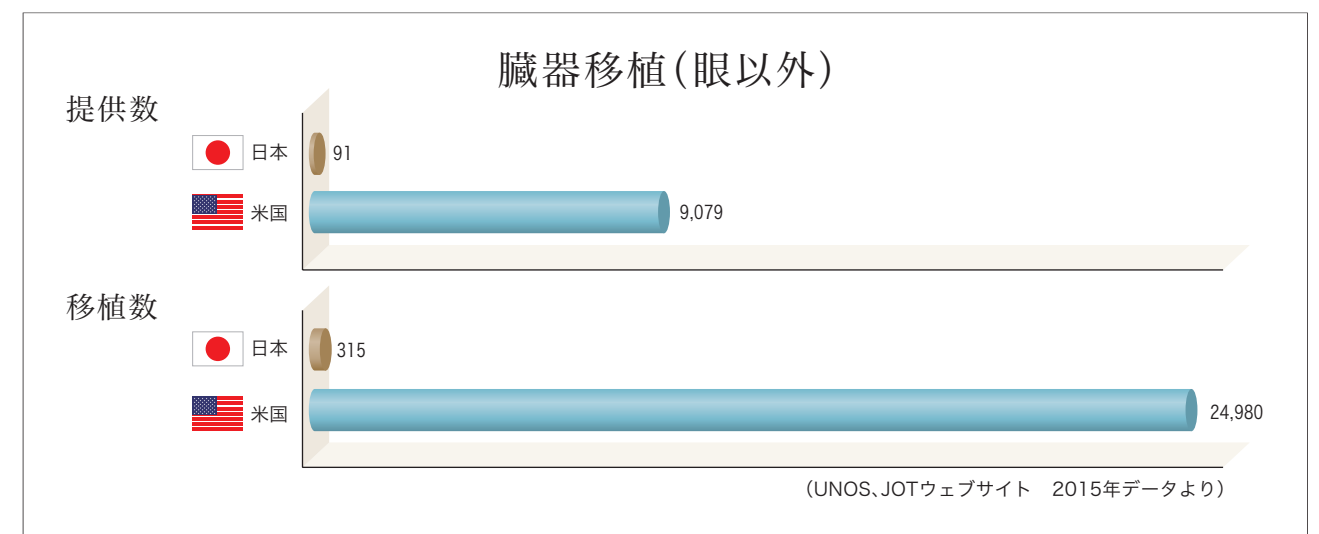
山添 どうしたら献眼を増やせるでしょうか。後藤先生になにか名案はありませんか。

図1 角膜献眼数(日米比較)



篠崎尚史・坪田一男先生提供

図2 臓器移植(眼以外)



臓器移植ネットワークから引用



後藤 ルーティンリファールシステム（RRS）という方法がありますね。院内の全ての死亡例で家族の臓器提供に対する意思を確認するというシステムのことです。分母が拡大すると分子も増える。つまり、角膜が集まる可能性が出てくる。ほとんど患者さんが病院で亡くなっても、そんな話されないでしょ？

ある大学病院で外科や内科で亡くなった方のご家族にも意思を伺う取り組みを始めたら、献眼が急に増えたいらしいです。

秦野 私もRRSがかなり重要なキーになると思いますね。全死者の遺族に、献眼の機会の説明をする。

山添 以前、千葉県の亀田総合病院で亡くなった方のご家族に確認してくれていた内科の先生がおられ、その時は病院で毎年献眼がありましたね。

後藤 そうです。実際聞けば応じて答えてくださる方々がいらっしゃるんです。どういう風にお話していますか？

山添 ご家族の承諾で献眼が可能であることを説明すると、じゃあお願いします、と言ってくださる方がいるようです。

■非医師による角膜摘出制度

秦野 2010年に臓器移植法案が改正になり、主旨は本人の生前の同意意思がなくても、遺族が同意すれば脳死提供ができるようになりました。神奈川選出の衆議院議員河野太郎さんが河野私案で尽力されたそうです。

神谷 河野さん父子は確か、生体肝移植をされていますよね。

秦野 私は2015年暮れに直接平塚の選挙事務所の河野太郎さんに会いに行ったんです。神奈川県では良質で十分な角



膜が得られないと訴えに行きました。角膜は本来、医学的に臓器でなく組織に分類されます。眼球移植（あればの話）は臓器移植ですが、角膜移植（全層、パーツ移植とも）は組織移植です。心臓移植（臓器移植）vs弁膜移植（組織移植）と同パターンです。アメリカ、ドイツではちゃんと角膜移植は組織移植とされています。組織採取も医師に限定されません。日本はなぜか、角膜移植を臓器移植法で扱っています。この点は再検討すべきです。組織移植には法律がないので角膜移植のフットワークはずっと軽くなりますね。国際社会と統一しておかないと将来問題が起こる気がします。

神谷 非医師による角膜摘出制度（角膜摘出土制度）の実現には、法改正が必要ですね。

秦野 私が知る限り、角膜学会の多くの方々は基本的にコーディネーター採取に賛成ですね。簡単にはまとまらないようですが、議論がまだまだ続くのでしょうか。

後藤 藤沢のリードで法改正ができあがるかもしれないですね。今だと、コーディネーターがそれをやったら遺体損壊罪とかになるのですかね。法改正があればクリアされます。

神谷 北里大学が海外ドナー中心でやっているのは、全身麻酔の都合で定時手術を行いたいというのが一つの理由です。もう一つは提供された国内角膜の質の問題です。質にばらつきがあり、良いものばかりではない。

秦野 クオリティの悪いものを使うべきではないです。ただ不良でも保存角膜として、角膜穿孔のパッチ用として



後藤英樹先生
慶應義塾大学医学部卒業後、マイアミ大学に留学し角膜移植の研鑽を積む。現在、鎌倉市・後藤眼科病院院長。鶴見大学眼科臨床教授。鎌倉市眼科医会会長。

は緊急に使えます。決して無駄ではない。むしろ必須な貯蓄です。

後藤 まさに、バンク機能ですね。

秦野 そうです。使用に耐えない角膜も出てきますが、その提供者には感謝状が贈られて、何よりもドネーションし

column コラム

⑦移植医療の発展

現在、自分は大磯町民である。神奈川県自民党の河野家3代目の河野太郎衆議院議員の選挙区で、自分は後援会会員でもある。たまたま、自分の高校時代の親友で元さいか屋社長の岡本康英君が太郎夫人と親戚という縁もあり、自分と太郎氏と会う機会を作ってもらった。選挙民と国会議員という関係で、いろいろ意見交換させてもらっている。本来の議会制民主主義の姿である。自分は長年角膜移植手術に携わってきた。氏は移植医療法制的エキスパートである。父、河野洋平氏との間で父子生体肝移植を体験し、父子で「決断」という本も書かれている。1部戴き、読ませていただいたが、内容は極めて感動的なものであった。洋平氏の書いた前半はまるで小説の迫力、後半の太郎氏のところは医学書のように緻密である。家族の方々の悩みや行動が克明に記述されていて、実に参考になった。氏の2010年臓器移植法案改正での河野私案による実績は評価に値する。これで初めて脳死者からの臓器提供が家族の同意で可能になったのである。以前は生前の本人同意が必要だった。あり得ないことである。日本は輸入角膜や募金集めの渡航移植などに明け暮れている。角膜移植を含む日本の移植医療全体の自給自足と独立を願うばかりである。



column コラム

⑧秦野章 vs 河野一郎

秦野章は藤沢出身の第67代警視總監で、都知事選で美濃部知事に敗退、最後は神奈川自民党参議員から法相を務めた。私の遠縁である。昔、私の父の実家は彼の本家から分家したそう。自分は生前に事務所と自宅で彼と数度会っている。ここで、聞いたことや自叙伝から裏話を少し披露したい。秦野章は若き警察時代に河野一郎（元農林大臣）を逮捕したことがあるそうである。罪状は知らない。そのとき秦野は「あなたを逮捕せねばならなかった。部下を遣わすので宜しく」と電話した。そのとき河野一郎は「あいよ、待ってるよ」と言ってサバサバと同行したそうである。彼は獄中でも中心人物で、出所後に仲間の囚人の一人を自分の使用人にしたそうである。正に河野一郎、大親分の面目厄如だったと言っていた。警視總監就任が取りざたされていた頃の総理が佐藤栄作であった。元々、河野、佐藤は張り合う仲で、佐藤は秦野章が河野一郎と同じ神奈川県人で近いことをかなり気にしていたという。その後、秦野は河野洋平氏（元衆議院議長）に自民党神奈川県連を通じて参議院選で世話になる。都知事選敗退で落胆していた秦野にとって、参議院当選はうれしかったようだ。さらに後日談がある。彼が参議院議場で上段に法務大臣として座ったおり、見下ろしたら下の一般議員席になんと美濃部元都知事が座っていたそう。上下逆転だった。都知事選の怨念か、我ながら正直「ごまー見ろ」と思ったそうである。本人からしか聞けない秘話である。彼もやはり人であった。



たという社会貢献の尊厳が残る。このシステムの最大の大義だと思います。集め過ぎくらいでいい。そうすれば、患者さんが受ける角膜は、みんな選りすぐりの上等な角膜になります。

山添 角膜が余るとは夢のような話です。

秦野 もし、国内で角膜が余れば、角膜移植ODAなどもありうると思う。

神谷 それに角膜摘出土制度があれば摘出までの時間が最短化されますから角膜の質は一気に上がりますよね。

山添 千葉の東京歯科大学のアイバンクでは医師が千葉県内全域へとりに行きます。医師の方は慣れています。とってきた眼球からの強角膜切り出しはテクニシャンが行っています。

秦野 島崎先生が歯科大のテクニシャンは眼球からの強角膜切り出しに慣れていて上手ですとおっしゃっていました。私はそれを眼球からではなく、死体から直接角膜をコーディネーターがとれる摘出土制度にまで持って行くのが良い方向だと思うのです。

山添 強角膜摘出についてはどうでしょう。

秦野 開業から15年間で63回摘出に行きましたが、前半は全眼球摘出で、後半は強角膜摘出でした。強角膜摘出は眼球全体ではなく、角膜移植に使うところだけ摘出します。

後藤 まさにパーツ移植ならぬパーツ摘出ですね！

神谷 至言ですね。全層角膜移植から必要な部分だけ移植する角膜内皮移植への術式変化と同じく、全眼球摘出か



山添克弥先生

名古屋市立大学医学部卒業後、亀田総合病院、東京歯科大学市川総合病院、慶應義塾大学医学研究科博士課程を経て、現在亀田総合病院眼科医長。ルミネはたの眼科副院長。



神谷和孝先生

神戸大学医学部医学科卒業後、東京大学医学部眼科助手、国立病院機構東京病院眼科医長、公立学校共済組合関東中央病院眼科部長を経て、現在北里大学医学部眼科准教授。

ら必要な部分だけいただく強角膜片摘出は合理的だと思います。

秦野 使う所だけ持っていく、ほとんどの眼球は残っているというふうに遺族へ説明がされるわけです。

山添 コーディネーターもやりやすいでしょうね。全眼球と表面の部分だけというのでは遺族感情は違うでしょう。

秦野 17年ほど前ですが、広島の木村亘先生が学会や論文で強角膜摘出の良さを発表されたんです。最近も非劣性を示す論文をいくつか送っていただきました。今、角膜だけの摘出が少し増えているんです。アメリカでは1996年ですでに全眼球摘出と強角膜摘出が半々くらい。今は過半数に届いていると思います。

後藤 日本ではまだまだ、全眼球摘出を支持する先生が多いですね。汚染や感染を心配しているのだと思いますが。感染症専門家のお立場から如何ですか。

秦野 外眼部の消毒をきちんとやれば大丈夫だと思います。オプチゾールには抗菌薬も入っていますし。私の自験例では術後急性期の感染は経験が全くありません。あるとすれば、ステロイド点眼が長期化して起こった日和見感染だけです。技術的な問題はありますが、だからこそ将来的にはやり慣れた専門の非医師のによる角膜摘出土制度

を検討して欲しいわけです。

後藤 勉強になりました。藤沢発のコーディネーター、テクニシャン制度ですね。

■アイバンクの拠点化

後藤 国内の提供がもっと増えると、国内角膜が予定患者さんの手術に使えるようになる可能性がありますね。

山添 充足すれば海外のアイバンクと同じようなことができるはずですね。中央集中させて、予定発送できれば。

秦野 アメリカで予定できて日本でできないわけない。それは単に眼数の圧倒的な違いなんでしょうね。今、山添先生が言ったような、中央アイバンクのような所があって角膜が全部集まればプレカットしてくれて、個々の施設に宅急便で届いたら、移植はすごく伸びると思います。

山添 今は海外から空輸しているくらいですからね。

神谷 そうすると各県にアイバンクはなくてもいいと思います。例えば中四国なら2カ所くらいあれば全部越境していけばいいんです。だけど県単位でやっているから、うちではそんなコーディネーターは雇えませんか、そんな規模はありませんとか消極的な意見が出てしまうそうです。東京、神奈川、千葉、静岡くらいのレベルのアイバンクができてくれば、ブロック化でもいいんですけど、拠点的なプレカット行為、それも国内ドナーでできる。各大学がカッターを買ってやる事はないんですよ。パーツ移植

が広がる中では、一つのキーワードはバンク機能の中央化でしょうね。

山添 それでは、まとめに入りたいと思います。今後の問題点や提言を整理していただけますか。

神谷 大事な現状整理ですが、基本的に県のアイバンクから供給される角膜の質と量の両方に問題があります。バンク側と医師側の両方に改善すべき問題がありますね。また全国的にみても角膜の海外依存度が上昇しているのが問題です。国内の比率をもっと上げないといけません。

後藤 とにかく角膜をもっと多く集めるためにはRRSが一つのポイントになると思います。コーディネーションの基本は説明であって説得じゃない。その説明を病院で全科的にもっともっと広く遺族に徹底すべきです。国レベルのプロトコルを作るべきですね。

秦野 何かしないと日本の移植医療は永久に二流です。眼科が弾みをつけて他科を援護射撃するくらいでないといけない。短期的戦術としては、安全性を担保した強角膜摘出も普及させること。バンクスタッフの教育によって幹旋前の角膜内皮の評価をきちんとしていただくこと。中長期的戦術としては、組織移植か臓器移植かの線の引き直しと訓練され資格化されたコーディネーターつまり角膜摘出土の法的制度化ですね。

山添 今日は皆さん貴重なご意見有難うございました。



座談会「神奈川の角膜移植を考える」
日時:2016年11月18日
場所:ルミネはたの眼科会議室

アイバンク活動②

「光響」の取り組み “もっと光を、もっと響きを”

「光響」は、タイトルに示した理念で、眼と音楽の関係を研究する目的で設立した一般社団法人（秦野 寛理事長）である。主要テーマは「視機能不良者や不安者に対する音楽療法の実験的試み」である。本会は理事長の長女山添響子が眼科医であること、長男秦野陽介がヴァイオリニストであることから、姉弟の両領域でのコラボへの期待と希望が一つの原点となっている。

定期活動

①アイバンク・チャリティーコンサート

場所：藤沢市民会館小ホール

主催：湘南アイバンク

内容：角膜移植講演会（眼科医師：神谷和孝、後藤英樹、秦野 寛）
コンサート（演奏家：秦野陽介、他）



ピアニスト丹千尋さんと



湘南アイバンクの皆さまと



音楽解説は院長



アイバンクチャリティーコンサート



②院内ミニコンサート

不定期に患者さん向けにヴァイオリン演奏会を行っている。主要テーマ「視機能不良者や不安者に対する音楽療法の実験的試み」として内容や定期化について検討中。



column コラム

⑨私の音楽歴

自分のいわゆるクラシック音楽の聴き始めは小学校の校内放送で聞いた“ドナウ川のさぎ波”あたりであろうか。確か、休み時間にいくつかの有名な通俗名曲が流れていたように記憶している。その後の大きな出会いは中学音楽教科書の鑑賞曲の中の1曲ベートーベンの「田園」であった。そのページにはベートーベンが後ろに腕を組んで黒いオーバーコートを着て田園を散策する有名な写真が載っていた。後年、これをまねて宮沢賢治が草原でオーバーコートを着て写真を撮らせている。また、それをまねて私もコートを着て思索しながら芝生を歩く姿を撮ってもらったことがある。音楽教室の大きなステレオ装置で先生が田園を聞かせてくれた。飯田先生である。針がアナログレコードの溝に乗り、最初の音楽が鳴るまで針が溝を走る細かな雑音まで覚えている。ずっと、ツィゴイネルワイゼンを代表とする特に物悲しいヴァイオリン名曲には心惹かれていた。また、音色ばかりでなくヴァイオリンの持つ芸術的な形とニスの色合いへの神秘的憧れがあったように思う。一度直接手に取って触ってみたいと思っていた。大学に入った年、横浜ヤマハの楽器コーナーでショーケースのヴァイオリンを見かけた。ケースを含めて全部で1万円、衝動買いしてしまった。後で分かったことだがそれは4分の3サイズの子供用であった。独学で苦戦していたところ、ピアノをやっていた友人が先生を紹介してくれた。そこから自分のヴァイオリンの晩学が始まった。そして、横浜交響楽団ジュニアオーケストラを皮切りに、藤沢市民交響楽団に十数年在団、そして10年ほどのブランクを経て最近またリラ弦楽合奏団に入れていただいた。全歴史に渡り第2ヴァイオリンの後方座席で弾くふりを続けている。この楽器は人数が多いため、弓の上下動きえ間違わなければ、どんな音を出しても遠い聴衆にはわからない。もぐりで居やすい楽器かもしれない。管楽器はほとんどソロなので無理である。



秦野陽介の演奏活動紹介

プロフィール

経歴 1984年藤沢市に生まれる。5歳でヴァイオリンを始める。1991年7歳で名倉淑子氏に師事。桐朋女子高校音楽学部(共学)を経てウィーン国立音楽大学に留学。国内で奥田雅代、森悠子、竹澤恭子、篠崎史紀、白井英治らに師事。ウィーンでA・アレンコフ、A・ヴィノクロフ、M・フリッシェンシュラガー、G・ビニショファーらに師事。

活動 サイトウ記念「若い人の為の室内楽勉強会」最年少参加、東京ジュニアオーケストラ(篠崎史紀音楽監督)コンサートマスター。小澤征爾音楽塾オペラプロジェクト参加。2009年3月デビューリサイタル開催(王子ホール)。2009年12月NHK交響楽団「第九演奏会」出演(NHKホール)。2011年度シャネルPYGMALION DAYS若手演奏家として6回リサイタル(シャネルネクサスホール)。

受賞

1999年日本クラシック音楽コンクール3位。2000年日本声楽器楽コンクール2位(1位なし)。2000年神奈川音楽コンクール高校の部2位。2005年ヨーゼフ・ディヒラーコンクール3位(オーストリア)。2005年Allegro Vivoオーストリア国際音楽祭コンクール1位(オーストリア国营ラジオORFで放送)。2009年大阪国際コンクール第3位(1位なし)。

CD 紹介



ヴァイオリン・ソナタ集

オーケストラとの共演



演奏活動の記録

♪ アイバンク・チャリティーコンサート (藤沢リラホール)	共演 ピアノ：潮田紀子 オーボエ：荒 絵理子 2008.9.23 ベートーベン、シュトラウス、クライスラー、他
♪ 秦野陽介デビュー・リサイタル (銀座王子ホール)	ピアノ伴奏：碓井俊樹 2009.3.1 W.A.モーツァルト ヴァイオリンソナタ ホ短調 K304 S.プロコフィエフ ヴァイオリンソナタ2番 ニ長調 作品94 R.シュトラウス ヴァイオリンソナタ 変ホ長調 作品18
♪ LOHAS クラシック音楽サロン (雑誌「ソトコト」2009年11月号紹介)	ピアノ伴奏：碓井俊樹 2009 バッハ、タルティーニ、モーツァルト、ヴィニアフスキー、 パガニーニ
♪ クリスマスコンサート篠崎“まろ”史紀 & カンパニー (王子ホール)	弦楽合奏 2009.12.18 モーツァルト、ドボルザーク、チャイコフスキー
♪ NHK 交響楽団「第九」演奏会 (NHKホール)	指揮：クルト・マズア 2009.12.22・22・25・26 ベートーベン交響曲第9番「合唱」
♪ 第8回国際協力アート展小山内美江子講演会 (熱海起雲閣)	ゲスト演奏 共演：中垣雅葉(琴) 2010.10.24
♪ シャネル・ピグマリオン連続コンサート (銀座シャネル・ネクサスホール)	ピアノ伴奏：丹 千尋 2011.2.19 クライスラー、ベートーベン、プロコフィエフ 2011.5.28 クライスラー、モーツァルト、シュトラウス 2011.8.6 クライスラー、ヴィニアフスキー、ベートーベン 2011.10.1 バッハ、モーツァルト 2011.11.5 クライスラー、モーツァルト、シュトラウス 2011.12.6 “grand finale” クライスラー、モンティ、デニク 2012.6.30 モーツァルト、グリーグ
♪ New Year チャリティーパーティー 2012 コン서트 (エメヴィバール)	Vla共演：館泉礼一 2012.1.29 モーツァルト、ヘンデル、他
♪ 南麻布ランチタイムコンサート (南麻布セントレホール)	2015.5.7 ピアノ伴奏：岩崎海奈 クライスラー 美しきロスマリン、他 2015.5.12 ピアノ伴奏：吉村直美 モーツァルト ヴァイオリン協奏曲3番
♪ 鎌田実先生講演会ゲスト演奏会 (熱海 MOA 美術館能楽堂)	2015.6.12 バッハ無伴奏ソナタ、他
♪ 湘南アイバンク・チャリティーコンサート (藤沢市民会館小ホール) ※28ページ写真参照	第10回 2014.6 ピアノ伴奏：丹 千尋 第11回 2015.6 ピアノ伴奏：丹 千尋 第12回 2016.6 ピアノ伴奏：田代純子
♪ ヴァイオリンとチェロのデュオ演奏会 (鶴沼アコレド)	チェロ共演：A.スコッチ(元ウイーンフィル団員)
♪ 第39回湘南アマデウス合奏団定期演奏会 (藤沢市民会館大ホール) ※30ページ写真参照	2016.5.14 モーツァルト ヴァイオリン協奏曲3番 独奏
♪ 湘南コンサートの会平成 28 年 6 月例会演奏会 (藤沢リラホール)	八人の奏者が奏でる壮麗なる弦の饗宴 2016.6.4 ビバルディー ヴァイオリン協奏曲四季「春・夏」独奏
♪ 日野原重明記念コンサート (帝国劇場ホール)	2016.10.29 チャイコフスキー 弦楽セレナーデ、他

東海道カンファランス

趣旨：東海道線沿線の眼科医療機関医師の親睦と情報交換
実際は外眼部のフォト・カンファランスと白内障手術話題が中心
話題提供自由のカフェ的な気楽な参加を特徴としている
場所：ルミネはたの眼科
時間：18時―19時：塗抹検鏡実習（院長診察室）※下写真
19時―21時：症例検討会（会議室）※次ページ写真



第 0回	2006.2.24	金
発足準備会議7名参加		
第 1回	2006.4.7	金
第 2回	2006.9.15	金
第 3回	2007.1.19	金
第 4回	2007.4.13	金
第 5回	2007.9.28	金
第 6回	2008.1	金
第 7回	2008.4	金
第 8回	2008.7.26	土
第 9回	2009.2.6	金
第10回	2009.4.24	金
第11回	2009.9.18	金
第12回	2010.1.29	金
第13回	2010.5.14	金
第14回	2010.9.10	金
第15回	2011.1.14	金
第16回	2011.5.20	金
第17回	2011.9.30	金
第18回	2012.1.20	金
第19回	2012.4.20	金
第20回	2012.9.14	金
第21回	2013.1.18	金
第22回	2013.4.12	金
第23回	2013.9.27	金
第24回	2014.1.10	金
第25回	2014.4.18	金
第26回	2014.9.26	金
第27回	2015.1.23	金
第28回	2015.4.24	金
第29回	2015.9.25	金
第30回	2016.1.22	金
30回記念に塗抹検鏡実習開始		
第31回	2016.4.15	金
第32回	2016.9.23	金



From Master 東海道カンファランスへの招待

このカンファランスは10年前から、年3回ごく近隣病院の先生方と立ち上げたものです。ずばり目的は、内心「こりゃなんだ？カンファ」と思っています。つまり、外眼部写真を中心に、診断のつきにくい、わけのわからない症例を、みんなで自由に“これはいったい何なんだ”と酒を飲みながら、臆することなく放言する会にしたかったわけです。

最初集まった先生方がほぼJR東海道線沿線の基幹病院の人たちであったために、東海道カンファランスと名づけました。今は県内の先生方が参加される会に発展しています。目的は症例検討が第一ですが、病診連携、病病連携、診診連携を潤滑にするために地域の眼科医が顔を合わせて、気ごころを通わせるのも大きな意義と考えています。

最近、特別講演を聞く学術講演会はいっぱいありますが、全員が発言する雰囲気勉強会はそうそうありません。例えば前者は大ホールの歌謡ショー、我らが後者はカラオケルームの会と言えるかもしれません。症例カフェのつもりで是非お寄りください。



東海道カンファランスへ寄せて

東海道カンファランスとともに

藤沢市民病院 眼科部長
井上克洋 先生



ルミネはたの眼科開院20周年とのこと、日頃貴院に難症例の外眼部疾患や、日帰り白内障手術を紹介させて頂いている者として、心より感謝とお礼を申し上げたいと思います。

湘南地区に秦野先生がおられるので、進行したアカントアメーバ角膜炎の様な難症例を先生と一緒に現在進行形で治療する機会を持たせてもらえることができるのは、湘南地区にいる眼科医の特権であり、かつ誇りであると考えます。そしてそのような難症例や、日常で疑問に思った症例を振り返るチャンスを貴院主催の東海道カンファランスが与えてくれました。東海道カンファランスは症例の写真だけでもアドバイスがもらえますので、直近の症例を提示したいときに写真をプリントアウトだけして飛び入りでプレゼンして多くの先生からの貴重な意見をいただけたこともありました。この10年出席される先生の幅が横浜市立大以外の他大学の先生へとさらに広がり、他大学、他施設の先生方の症例への考えもうかがえるカンファランスへと発展しているようです。ヘルペス角膜炎の様な基本的な疾患から、最新の角膜治療等の総説や秦野先生の現段階での評価をミニレクチャーで勉強できるこの時間ほど、役立つ外眼部カンファランスはないと思っています。今後とも我々湘南地区の眼科医の外眼部疾患に関してのスキルアップの力添えを、患者さまの治療やカンファランスを通してお願いできればと勝手ながら思い続けております。

column

コラム

⑩History はHis story

「歴史」という用語は言語によって造語発想が異なるようである。自分は外国語の“歴史”に相当する言葉を多く知っているわけではないが、historyという英語表現に一番妥当性や真実性を感じている。ヒストリーはギリシャ語のヒストリアイから由来しているそうだが、自分はHistoryをスペル分解してHis storyだと思っている。Heは王様である。日本なら天皇である。ないしは、その国のestablishmentである。つまり、歴史書の内容は王様の話した話なのである。それ以外の文章は残らない。もちろん実際の記述は御用学者によってなされ、王に検閲される。本誌も自院の20年史であり、当然これも「私の話；my story」に過ぎない。病気にも病歴という歴史がある。この時のhistoryのheは患者さん自身である。この時こそ、heのstoryには十分に耳を傾けて、かつ正史と解釈して傾聴するべきであろう。正確で十全な病歴聴取から、診断の糸口を見つけるのが医者の仕事である。しかし、このhistory聴取も注意を要する場合がある。heが真実を語るとは限らない。自分の専門の感染症の例を挙げる。1例は性行為感染症STDである。性病の淋菌性結膜炎なる最重篤の結膜炎の患者さんは、多くの場合先立つ事実は語らない。聞けば黙秘かウソを言う。もう1例はコンタクトレンズ関連角膜感染症である。ほとんどがソフトコンタクトの誤使用とケア不足から起こる。しかし、改めて聞くと、かなりの青少年がきちんと毎日レンズケアしていたと言う。正史とは何だろうか。「この世に真実などない。あるのは解釈だけである。」と言ったニーチェはすごい。

東海道カンファランスの思い出

茅ヶ崎中央病院 眼科部長
松本年弘 先生



「ルミネはたの眼科」開院20周年おめでとうございます。

東海道カンファランスは2005年の秋ころ、日本アルコンのMRさん（瀧川さんだったと思いますか?）から「藤沢&茅ヶ崎地区で新しい勉強会を立ち上げたいので、相談に乗って欲しい」と言われたのがきっかけだったと思います。たまたまその時秦野先生がミーティングルームをクリニック内に作ったとの噂をどこからか聞いていたのを思い出し、「秦野先生に提案してみたら」とお話ししたことから、トントン拍子に話が進み、2006年1月に東海道カンファランス準備会が開かれました。その時のメンバーは秦野先生・井上先生（藤沢市民病院）・益原先生（茅ヶ崎市立病院）・吉川先生&私（茅ヶ崎中央病院）そのほか数人だったような気がします。そして記念すべき第1回が2006年4月7日に開催されました。この時の茅ヶ崎中央病院からの演題は「ヤグレーザー後嚢切開後、残存皮質が瞳孔領を覆った1例」でした。それからすでに10年以上たち、今では毎回入りきれないほどの大勢の人たちが集まり、楽しく議論をする場に発展しました。これからも藤沢&茅ヶ崎地区の重要な勉強会の場として、末永く続くことを祈っております。

東海道カンファランスとともに

茅ヶ崎市立病院 眼科部長
益原奈美 先生



ルミネはたの眼科開院20周年、おめでとうございます。いつも、角膜や感染症の難症例を引き受けていただき、感謝しています。また、秦野先生の主宰されている東海道カンファランスには、発足当初から参加させていただき大変勉強になっております。振り返って見ると、はじめは近隣の病院勤務医で困った症例を先生にアドバイスいただく会でしたが、徐々に参加者も増え、所属施設も横浜市大の関連病院にとどまらず、多岐にわたるようになりました。また、手術に関する検討症例も増えてきました。これも、ひとえに秦野先生のお人柄、学識や経験の豊かさのためと思います。診療でお忙しい中ですが、まだまだ私たちの指導にも時間をとっていただきたいと思います。東海道カンファランス、ずっと続けてください。毎回、楽しみにしています。

院内定期イベント②



医療は教育でもある。目標は患者さん自身の病気理解に基づく自立安寧である。

公開説明会 白内障・緑内障

白内障が偶数月、緑内障が奇数月の第3火曜日2時30分から3時15分まで。

患者さんと一般の方向けに、疾患説明会を定期的に10年以上実施している。

場所：当院会議室

参加者の声

- ・インターネットなどで学習してみましたが、先生に直接説明していただいて、とてもわかりやすかったです。ありがとうございます。（鎌倉市・50代・女性）
- ・先生のお話はとても分かりやすく、有意義な時間となりました。定期的に検診していただくため通院しようと思いました。（藤沢市・40代・男性）
- ・手術をするか迷っていましたが、手術をする意義を理解でき、不安が消えました。大変参考になりました。（藤沢市・70代・女性）
- ・とても丁寧に、初歩からお時間をとって説明していただき、大変分かりやすかったです。（横浜市・40代・女性）



院内定期イベント③



仕事では「知る、好む、楽しむ」の段階を登る。

ランチョンセミナー

目的：職員教育

毎月第3火曜日 昼休み

企業の協力を得て薬剤、器械、コンタクト、接遇などをテーマに昼食を食べながら勉強している。引き続き、月例の職員会議をしている。なお、朝礼も8時20分から、院長診察室で毎日行っている。

場所：当院会議室





院長学術業績 1997年～2016年

〈原著論文〉

1. 岡本茂樹、秦野 寛、他16名：アシクロビル眼軟膏の副作用調査 臨眼51(6)：1112-1114、1997
2. 和田智之、榊 秀之、秦野 寛：ガチフロキサシン点眼液のウサギ前房内接種型腸球菌眼内炎に対する抑制効果 あたらしい眼科21(11)：1525-1529、2004
3. 大橋裕一、秦野 寛：細菌性結膜炎に対するガチフロキサシン点眼液の臨床第Ⅲ相試験(多施設無作為化二重盲検比較試験) あたらしい眼科22(1)：123-131、2005
4. 竹内 聡、中川 尚、米本淳一、秦野 寛、石岡みさき、加藤陽子、伊藤典彦、水木信久：高感度アデノウイルス結膜炎迅速診断キットの評価ーアデノウイルス結膜炎迅速診断キット、キャピリアアデノとアデノチェックの比較ー あたらしい眼科23(7)：921-924、2006
5. 薄井紀夫、宇野敏彦、大木孝太郎、大鹿哲郎、大橋裕一、小椋祐一郎、桑山泰明、秦野 寛、吉富文昭：白内障に関する術後眼内炎全国症例調査眼科手術19(1)：73-79、2006
6. 感染性角膜炎全国サーベイランス・スタディグループ：感染性角膜炎全国サーベイランスー分離菌・患者背景・治療の現況ー 日本眼科学会雑誌110(12)：961-972、2006
7. 砂田淳子、上田安希子、井上幸次、大橋裕一、宇野敏彦、北川和子、秦野 寛、塩田 洋、浅利誠志：感染性角膜炎全国サーベイランス分離菌における薬剤感染性と市販点眼薬のpostantibiotic effectの比較 日本眼科学会雑誌110(12)：973-983、2006
8. Oshika T, Hatano H, Kuwayama Y, Ogura Y, Ohashi Y, Oki K, Uno T, Usui N, Yoshitomi F: Incidence of endophthalmitis after cataract surgery in Japan. Acta Ophthalmologica Scandinavica 85:848-851, 2007
9. 加藤葉子、中川 尚、秦野 寛、大野智子、林孝彦、佐々木爽、水木信久：学童におけるオルソケラトロジー経過中に発症したアカントアメーバ角膜炎の1例 あたらしい眼科25(12)、2008
10. 加賀玲子、永瀬聡子、伊藤亜紀子、井上克洋、秦野 寛：痛みを伴わなかった白内障術後CNS眼内炎の1例 あたらしい眼科25(3)：375-378、2008
11. 秦野 寛、大野重昭、北野周作：トスフロキサシン点眼液による眼科周術期の無菌化療法 眼科手術23：314ー320、2010
12. 鈴木智親、野村直子、飛鳥田有里、加藤陽子、榮木尚子、中川 尚、秦野 寛、中沢正年、水木信久：早期診断・早期治療により視力予後が良好であったアカントアメーバ角膜炎の1例 日本コンタクトレンズ学会誌53：27-30、2011
13. 井上幸次、大橋裕一、秦野 寛、下村嘉一、坂本雅子、岡本 豊、眼感染症起炎菌・薬剤感受性動向調査スタディグループ：前眼部・外眼部眼感染症における起炎菌判定ー日本眼感染症学会による眼感染症起炎菌・薬剤感受性動向調査(第一報)ー 日本眼科学会雑誌115(9)：801-813、2011
14. 秦野 寛、井上幸次、大橋裕一、下村嘉一、坂本雅子、岡本 豊、眼感染症起炎菌・薬剤感受性動向調査スタディグループ：前眼部・外眼部眼感染症起炎菌の薬剤感受性ー日本眼感染症学会による眼感染症起炎菌・薬剤感受性多施設調査(第二報)ー 日本眼科学会雑誌115(9)：814-824、2011

15. 末信敏秀、石黒美香、松崎 薫、池田文昭、秦野 寛：細菌性外眼部感染症分離菌株のgatifloxacinに対する感受性調査 あたらしい眼科28：1321-1329、2011
16. 大橋裕一、井上幸次、秦野 寛、外園千恵、1.5%レボフロキサシン点眼液共同試験グループ：細菌性結膜炎及び細菌性角膜炎に対する1.5%レボフロキサシン点眼液(DE-108点眼液)の第Ⅲ相臨床試験 あたらしい眼科29：669-678、2012
17. 宮永嘉隆、中川 尚、秦野 寛、他：新しいアデノウイルス迅速診断法「クイックナビ-アデノ」の臨床評価 あたらしい眼科29：659-663、2012
18. 加藤陽子、中川 尚、秦野 寛、水木信久：淋菌性結膜炎と鑑別を要したモラクセラ結膜炎の1例 あたらしい眼科30：834-836、2013
19. 秦野 寛、坂本雅子、林 一夫、神谷正剛：ヨウ素・ポリビニルアルコール点眼・洗眼液(PA・ヨード)の消毒活性における温度・濃度・時間の影響と保存安定性 日本眼科学会雑誌119：503-510、2015
20. 井上幸次、大橋裕一、鈴木 崇、秦野 寛、他：真菌性角膜炎に関する多施設共同前向き観察研究ー患者背景・臨床所見・治療・予後の現況ー 日眼会誌120：5-16、2016
21. 砂田淳子、浅利誠志、井上幸次、秦野 寛、他：真菌性角膜炎に関する多施設共同前向き観察研究ー真菌の同定と薬剤感受性検査についてー 日眼会誌120：17-27、2016
22. 末信敏秀、秦野 寛：ガチフロ点眼液0.3%の小児外眼部感染症患者に対する有用性 あたらしい眼科33(4)：557-583、2016

〈総説論文〉

1. 秦野 寛：結膜炎の点眼剤の選択法 日本の眼科68(7)：719-723、1997
2. 秦野 寛：感染性と無菌性眼内炎の鑑別診断 あたらしい眼科15(9)：1207-1209、1998
3. 秦野 寛：細菌性眼内炎 あたらしい眼科15(9)：1211-1214、1998

4. 秦野 寛：目が赤い、ヤニが出る、適切なケアは？眼科ケア2(2)：352-360、2000
5. 秦野 寛：感染症とは？ 眼科ケア3(6)：530-535、2001
6. 秦野 寛：めばちこ(炎症性霰粒腫と麦粒腫) コンタクトレンズと眼感染症 日経メディカル1月号、2001
7. 秦野 寛：巻頭言「抗菌薬投与の基本戦略」日本眼科学会雑誌106(4)：193-194、2002
8. 秦野 寛：起炎菌は何か あたらしい眼科19(8)：979-984、2002
9. 秦野 寛：眼感染症の外科的治療 臨床眼科57(11)：270-274、2003
10. 秦野 寛：ポビドンヨードの眼科使用禁止情報と対応 ophthalmic surgeons vol.2 no.3、2003
11. 秦野 寛：目のどこに感染するか 眼科ケア 夏期増刊44：23-29、2003
12. 秦野 寛：感染症新法と眼科関連疾患 眼科ケア 夏期増刊44：30-35、2003
13. 大橋裕一、井上幸次、秦野 寛、Terrence P. O'Brien：眼感染症におけるガチフロキサシン点眼液の可能性を探るー第4世代キノロン系抗菌薬点眼薬への期待ー 眼科46(9)：付1-7、2004
14. 秦野 寛：モラクセラ角膜炎 あたらしい眼科21(1)：63、2004
15. 秦野 寛：クラミジア結膜炎 日経メディカル5月号：65-66、2004
16. 秦野 寛：結膜炎の薬物療法 薬事新報2326：11-15、2004
17. 坪井利治、秦野 寛：新規のキノロン系抗菌薬・ガチフロキサシン点眼液「ガチフロ0.3%点眼液」の臨床薬理 化学療法の領域20(9)：1369-1378、2004
18. 秦野 寛：結膜炎の薬物療法 薬事新報：11-14、2004
19. 秦野 寛：白内障術後眼内炎 起炎菌と臨床病型 あたらしい眼科22(7)：875-879、2005
20. 秦野 寛：アレルギー性結膜炎でステロイド点眼薬を使ってもよいですか？ Journal Integrated Medicine15：37、2005
21. 秦野 寛：白内障手術後眼内炎ABC II病態 細菌の毒性 眼科手術19：211-215、2006
22. 秦野 寛：眼科病院外来・診療所における感染対策 INFECTION CONTROL17(6)：48-52、2008

column コラム

⑪もっとも恐ろしいもの

世に恐ろしいものはたくさんある。天災と人災。しかし、もっとも恐ろしいのは蛇でも虎でもない、それは自分の良心であると思う。言い換えれば、身から出た錆とも言える。これを、自分にスマートに確信させてくれるのは、後にも先にもシェークスピアの戯曲マクベスである。どんな豪気の荒武者でも、どんな強気の悪女でも、最後の最後、良心の呵責からは逃れられない。王を殺害して自らが王位についたことで、結局、マクベス夫妻は自責の念から発狂して死んでしまう。天災で死ぬのは仕方ない。想定外なら神の意志である。天に(地獄でないといいが)召されればいいだけのことだ。恐ろしくはない。昨今、天変地異が多発している。地球が怒っている。今、必要なのは覚悟の醸成だ。早く悟りたいと思っている。認知症発症前が勝負である。



23. 秦野 寛：日常臨床での点眼薬の特徴とコツ
1.抗微生物薬(抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬)
眼科51(2)：123-132、2009

24. 秦野 寛：とことんわかる細菌性結膜炎 眼科ケ
ア13：66-72、2011

25. 秦野 寛：術後眼内炎の病態と診断 日本の眼科
82：439-444、2011

26. 秦野 寛：わかりやすい臨床講座 感染症はPK/
PD保障―外眼部感染症に対する薬物治療のト
ピックス― 日本の眼科6号：766-773、2014

27. 秦野 寛：細菌性角膜潰瘍 特集「眼の細菌感
染」 眼科vol58：125-130、2016

28. 秦野 寛：ヨード製剤の可能性 臨床眼科増刊号
眼感染症の傾向と対策：82-86、2016

〈著書〉

1. 秦野 寛：眼科薬剤クイックリファレンス 大橋
裕一、木下茂、田野保雄編集 I点眼および全身
投与薬 1.抗菌薬：1-13、南光堂 東京、1997

2. 秦野 寛：眼科診療エッセンス 木下 茂、田野
保雄編集 I角結膜 結膜炎 細菌性結膜炎：
10-11、メジカルビュー社 東京、1998

3. 秦野 寛：眼科診療エッセンス 木下 茂、田野
保雄編集 I角結膜 角膜感染症 細菌性角膜
炎：32-33、メジカルビュー社 東京、1998

4. 加藤卓次、秦野 寛：眼科診療エッセンス 木下
茂、田野保雄編集 VII眼科における簡単な検査
法角膜・結膜の簡単な検査 細菌培養、PCR：
194、メジカルビュー社 東京、1998

5. 秦野 寛：眼科診療プラクティス 39眼科不定愁
訴 内因性細菌性眼内炎 結膜炎があれば眼精疲
労の原因としてよいか?：33、文光堂 東京、1998

6. 秦野 寛：眼科外来診療マニュアル 結膜異常：
134-137、医学書院 東京、1999

7. 秦野 寛：眼科診療プラクティス 47感染性ぶ
どう膜炎の病因診断と治療 臼井正彦編集 内因
性細菌性眼内炎：6-10、文光堂 東京、1999

8. 秦野 寛：眼科診療プラクティス 42点眼薬の
使い方 本田孔士編集 抗細菌薬：6-10、文光
堂 東京、1999

9. 秦野 寛：眼感染症クリニック 臼井正彦他編
集 II臨床所見とその診断・治療2.結膜炎：15-
33、医学書院 東京、2000

10. 秦野 寛：眼感染症クリニック 臼井正彦他編集
II臨床所見とその診断・治療 6術後眼内炎：114-

119、医学書院 東京、2000

11. 秦野 寛：眼感染症クリニック 臼井正彦他編
集III治療薬1 抗菌薬：144-146、医学書院 東
京、2000

12. 秦野 寛：眼感染症クリニック 臼井正彦他編集IV
検査 2細菌：167-170、医学書院 東京、2000

13. 秦野 寛：新図説臨床眼科講座第3巻 角結膜疾
患 細菌性角膜炎：210-217、メジカルビュー
社 東京、2000

14. 秦野 寛：ハンズオン前眼部・外眼部診療―診
断・治療・小手術―千原悦夫、河野真一郎編集
2章A結膜炎 1.細菌性結膜炎、クラミジア：
3-6、南光堂 東京、2000

15. 秦野 寛：眼科診療プラクティス 55眼科で
の内服と注射 本田孔士編集 抗ウイルス薬：
10、抗細菌薬：12、文光堂 東京、2000

16. 秦野 寛、鎌田光二：眼科手術の必須知識 大鹿哲
郎、大橋裕一編集 手術に関連した基礎知識 眼微
生物学：158-161、メジカルビュー社 東京、2000

17. 臼井正彦、大橋裕一、田川義継、秦野 寛、林皓
三郎編集：眼感染症クリニック、医学書院 東
京、2000

18. 秦野 寛：眼科診療プラクティス 79角結膜疾
患の薬物療法 西田輝夫編集 細菌性結膜炎：
44-46、文光堂 東京、2002

19. 秦野 寛：眼科学 丸尾敏夫他編集 I構造と病
態 B結膜 2結膜の病態 結膜の炎症 3結膜
炎各論 Koch-Weeks結膜炎 他16項目：53-
58、文光堂 東京、2002

20. 秦野 寛：眼科診療プラクティス 80涙道疾患
の診療 丸尾敏夫他編集 涙嚢炎：20-21、文光
堂 東京、2002

21. 秦野 寛：眼科診療プラクティス 79角結膜疾
患の薬物療法 西田輝夫編集 細菌性結膜炎：
44-46、文光堂 東京、2002

22. 秦野 寛：眼科診療プラクティス 101前眼部疾
患のトラブルシューティング 下村嘉一、井上幸
次編集 患者のコンプライアンスが悪い：91、こ
の点眼いつまでするの：92、文光堂 東京、2003

23. 秦野 寛：眼科薬物治療ガイド 丸尾敏夫他編集
細菌性結膜炎：28-29、文光堂 東京、2004

24. 秦野 寛：眼科当直医・救急ガイド 丸尾敏夫他
編集 眼部腫脹(眼瞼腫脹・発赤)：256-257、
文光堂 東京、2004

25. 秦野 寛：白内障手術CCC完全マスター 黒坂

大次郎、前田直之編集 レボフロキサシン点眼液
の特長：154、メジカルビュー社 東京、2005

26. 秦野 寛：さよなら術後眼内炎 大橋裕一編集
I総論、II急性・亜急性眼内炎：13-29、金原出
版 東京、2006

27. 秦野 寛：基礎からわかるぶどう膜炎 水木信久
編集 10細菌性眼内炎：282-289、金原出版
東京、2006

28. 秦野 寛：眼科プラクティス 角膜外科のエッセ
ンス 坪田一男編集 3全層角膜移植 1)手術適
応と前処置：80-84、文光堂 東京、2007

29. 秦野 寛：眼科疾患の薬物治療 結膜炎の薬物療
法 丸尾敏夫監修 山岡桂子編集：10-14、薬事
新報社 東京、2007

30. 秦野 寛：眼科プラクティス 前眼部アトラス
大鹿哲郎編集 フリクテン性結膜炎：55、モラ
クセラ角膜炎：181、文光堂 東京、2007

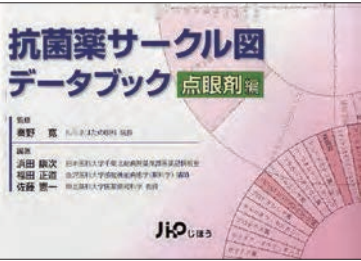
31. 秦野 寛：眼科プラクティス 眼感染症の謎を
解く 大橋裕一編集 眼脂：30、モラクセラ角
膜炎：127、涙嚢炎：213、涙小管炎：216、点
眼：272、ヘモフィルス属：414、モラクセラ
属：416、文光堂 東京、2009

32. 秦野 寛監修：
抗菌薬サークル
図 データブッ
ク点眼剤編、じ
ほう社 東京、
2009

33. 秦野 寛：眼科
研修ノート坪田一男他編集 臨床に活かせる基礎
知識 1微生物学：208、診断と治療社 東京、
2009

34. 中川 尚、秦野
寛編集：眼科医
のための塗抹検
鏡アトラス、イ
ンフロント 東
京、2010

35. 秦野 寛：結膜
充血を鑑別する
大橋裕一編集
眼科診療クオリ
ファイ 結膜
炎オールラウン
ド：2-5、中山書店 東京、2010



36. 秦野 寛：眼脂を見分ける 大橋裕一編集 眼
科診療クオリファイ 結膜炎オールラウンド：
6-9、中山書店 東京、2010

37. 秦野 寛：カタル性結膜炎(インフルエンザ菌、
肺炎球菌) 大橋裕一編集 眼科クオリファイ
結膜炎オールラウンド：72-75、中山書店 東
京、2010

38. 秦野 寛：塗抹標本検査 下村喜一編集 目の感
染症：12-17、金芳堂 京都、2010

39. 秦野 寛：感染性眼内炎 今日の治療指針 山
口徹他編集：1243-1244、医学書院 東京、
2011

40. 秦野 寛：身につくシリーズ 結膜疾患の診断と
治療(単著)、金原出版 東京、2012

※詳細は52ページ

41. 秦野 寛：細菌性結膜炎 メディカルオフサルモ
ロジ―眼科薬物治療のすべて：2-9 村田敏規編
集、中山書店 東京、2012

42. 秦野 寛：淋菌性結膜炎の重症例 Q&A眼科診
療のピットフォール：21-22、金芳堂 東京、
2013

43. 秦野 寛：眼科における抗菌薬投与の注意点と要
点 図で早わかり実践眼科薬理：18-22、医学書
院 東京、2014

44. 秦野 寛：内因性細菌性眼内炎 眼感染症診療マ
ニュアル：322-332、医学書院 東京、2014

45. 秦野 寛：梅毒性角膜実質炎 眼科診療クオリ
ファイ 角膜混濁のすべて：189-191、中山書
店 東京、2014

46. 秦野 寛：眼脂 インターネット閲覧誌「今日の臨
床サポート」エルセビア・ジャパン 東京、2014

47. 秦野 寛：結膜異物 眼科外来処置・小手術：
86-87、メジカルビュー社 東京、2014

48. 秦野 寛：カタル性結膜炎 眼科疾患最新の治療
2016-2018：99、南江堂 東京、2016

49. 秦野 寛：微生物学的検査 角結膜疾患の治療戦
略 薬物治療と手術の最前線 島崎 潤編集、医
学書院 東京、2016

50. 秦野 寛：検体検査1)前眼部検査②細菌検査：
686-689、眼科検査ガイド(第2版)根木 昭監
修、文光堂 東京、2016



〈特別講演〉

1. 秦野 寛：眼内炎に対する抗菌薬の選択と投与経路 宮崎県眼科医会第1回フェニックスセミナー 1998 宮崎
2. 秦野 寛：角膜潰瘍の主要起炎菌と薬物療法のポイント 宮崎県眼科医会第5回フェニックスセミナー 2002.10.6 宮崎
3. 秦野 寛：細菌性結膜炎、角膜炎、眼内炎の感染病態の違い 第51回宮崎医科大学眼科研究会 2003.9.27 宮崎
4. 秦野 寛：眼内炎の病態 第69回日本中部眼科学会・第100回中国四国眼科学会合同眼科学会 2003.10.12 岡山
5. 秦野 寛：結膜、角膜、眼内における細菌感染病態の違い 第13回湘西眼科臨床フォーラム 2003.12.13 厚木
6. 秦野 寛：結膜、角膜、眼内における細菌感染病態の違い 第302回岩手眼科集談会 2004.1.24 岩手
7. 秦野 寛：結膜、角膜、眼内における細菌感染病態の違い 北海道眼科医会眼科集談会 2004.3.13 札幌
8. 秦野 寛：結膜、角膜、眼内における細菌感染病態の違い 横須賀市眼科医会学術講演会 2004.5.18 横須賀
9. 秦野 寛：結膜、角膜、眼内における細菌感染病態の違い 第26回愛媛県眼科フォーラム 2004.6.20 松山
10. 秦野 寛：結膜、角膜、眼内における細菌感染病態の違い 横浜市眼科医会学術講演会 2004.9.30 横浜
11. 秦野 寛：結膜、角膜、眼内における細菌感染病態の違い 第103回広島県眼科医会講習会 2004.10.2 広島
12. 秦野 寛：術後眼内炎の予防と対処 第7回前眼部疾患研究会 2005.10.16 岡山
13. 秦野 寛：第1回横浜Ocular surface symposium 感染性角膜潰瘍の診断と治療—細菌、真菌、アメーバ 2007.1.13 横浜
14. 秦野 寛：結膜、角膜、眼内における細菌感染病態の違い 第70回岡山大学眼科研究会・第40回岡山角膜移植研究会 2007.3.29 岡山
15. 秦野 寛：角膜感染症の診断と治療—細菌、真菌、アメーバ 第8回山口眼科フォーラム 2007.6.23 山口

16. 秦野 寛：結膜と角膜での細菌感染病態の違いと対応 長崎県眼科医会学術講演会 2008.3.22 長崎
17. 秦野 寛：細菌性角膜潰瘍の診断と治療 第4回大阪角膜フォーラム 2008.5.10 大阪
18. 秦野 寛：結膜、角膜、眼内における細菌感染病態の違いとその対応 長野市眼科講演会 2008.7.12 長野
19. 秦野 寛：白内障術後眼内炎の予防と治療 第10回横浜眼科臨床フォーラム 2008.9.6 横浜
20. 秦野 寛：前眼部感染症について 静岡県眼医会眼科医療従事者講演会 2009.1.17 静岡
21. 秦野 寛：小児の眼感染症 神奈川小児科医会学術講演会 2009.8.6 横浜
22. 秦野 寛：結膜、角膜、眼内における細菌感染病態の違いとその対応 静岡県遠州眼科医会放談会 2009.9.26 浜松
23. 秦野 寛：結膜炎必発症状“眼脂と充血”の徹底分析 第1回湘西眼科アカデミー 2010.10.27 相模原
24. 秦野 寛：日帰り角膜移植14年を振り返って 第2回神奈川角膜緑内障研究会(よこはまグラネア会) 2010.11.19 横浜
25. 秦野 寛：子供の目の感染症～治療のポイントはここ～ 第100回富山県小児科医会学術講演会 2010.11.28 富山
26. 秦野 寛：角膜感染症の診断 北海道眼科医会生涯教育講座 2011.10.15 札幌
27. 秦野 寛：小児眼感染症の診断と治療 小児学術講演会 2011.10.21 那覇
28. 秦野 寛：角膜感染症の診断と治療 第21回青森眼科セミナー 2011.11.5 青森
29. 秦野 寛：小児眼感染症の診断と治療 長野市小児科集談会 2011.11.16 長野
30. 秦野 寛：角膜感染症の診断と治療 第243回長野県眼科医会集談会・第31回信州臨床眼科研究会 2011.12.11 松本
31. 秦野 寛：角膜感染症の診断と治療 道北眼科医会学術講演会 2012.5.19 旭川
32. 秦野 寛：角膜感染症の診断と治療 第45回神奈川県眼科臨床談話会 2013.1.14 川崎
33. 秦野 寛：白内障術後眼内炎の予防と治療 十勝眼科医会学術講演会 2013.10.5 帯広
34. 秦野 寛：角膜感染症の診断と治療 第4回眼科セミナー in多摩 2014.2.21 立川
35. 秦野 寛：ドライアイ「病態・診断と治療」 第

1回YSOM 2014.3.7 横浜

36. 秦野 寛：ドライアイ「病態・診断と治療」 足柄上医師会学術講演会 2014.3.12 松田
37. 秦野 寛：角膜感染症の診断と治療 第12回 Symposium of ocular surface and infection 2014.5.31 大阪
38. 秦野 寛：3大眼細菌感染症の病態と対応 “結膜炎・角膜炎・眼内炎” 2015.4.26 愛媛
39. 秦野 寛：3大眼細菌感染症の病態と対応 “結膜炎・角膜炎・眼内炎” 第31回岩手眼科臨床懇話会 2015.5.30 盛岡
40. 秦野 寛：3大眼細菌感染症の病態と対応 “結膜炎・角膜炎・眼内炎” 2015.8.1 鹿児島
41. 秦野 寛：3大眼細菌感染症の病態と対応 “結膜炎・角膜炎・眼内炎” 第167回宮崎県眼科講習会 2016.2.6 宮崎
42. 秦野 寛：コンタクトレンズと角膜感染症 第167回宮崎県眼科講習会 上級者講習会 2016.2.7 宮崎
43. 秦野 寛：3大眼細菌感染症の病態と対応 “結膜炎・角膜炎・眼内炎” 房総地区眼科学術講演会 2016.11.26 千葉

〈シンポジウム〉

1. 秦野 寛：抗菌点眼薬 角結膜炎への投与方法 第7回角膜緑内障研究会 シンポジウム 2007.3.16 福岡
2. 秦野 寛：感染性角膜炎診療ガイドラインのポイントと今後の課題 「検査」 第62回日本臨床眼科学会 シンポジウム 2008.10.24 東京
3. 秦野 寛： プラクチス “眼内炎が来たら” 3.術後炎症は否定されるまではPIEで(Presumably Infectious Endophthalmitis) 「第29回JSCRS (日本白内障屈折矯正手術学会) 学術総会」 2014.7.13 福岡
4. 秦野 寛：プラクチス “眼内炎が来たら” 3.対応術後炎症は否定されるまではPIEで(Presumably Infectious Endophthalmitis) 「第30回JSCRS (日本白内障屈折矯正手術学会) 学術総会」 2015.6.21 東京
5. 秦野 寛：プラクチス “眼内炎が来たら” 3.対応術後炎症は否定されるまでは PIEで(Presumably Infectious Endophthalmitis) 「第30回JSCRS (日本白内障屈折矯正手術学会) 学術総会」 2016.6.25 京都

〈セミナー講演〉

1. 秦野 寛：流涙症の鑑別診断 第40回日本白内障学会・第16回日本眼内レンズ屈折手術学会 2001.6.16
2. 秦野 寛：角膜細菌感染の診断と治療 第107回京都眼科学会 2001.6.24 京都
3. 秦野 寛：細菌感染症-内眼部 日本眼科医会 第42回生涯教育講座4回 2001.7-8 東京、名古屋、神戸、福岡
4. 秦野 寛：白内障術後眼内炎の現状と対策 第4回横浜臨床眼科セミナー 2001.11.29 横浜
5. 秦野 寛：術後眼内炎-タイプ別初期対応戦略 第26回日本眼科手術学会総会 2003.2.1 京都
6. 秦野 寛：細菌性角膜炎の診断と治療 第15回大阪医大眼科セミナー 2003.3.8 大阪
7. 秦野 寛：眼細菌感染症 ～起炎菌の概況～ 東京都眼科医会 2003.7.19 東京
8. 秦野 寛：細菌対策バージョンアップ 第57回日本臨床眼科学会 2003.11.1 名古屋
9. 秦野 寛：外眼部感染症～日米で見る最近の動向～ 第108回日本眼科学会総会 2004.4.16 東京
10. 秦野 寛：眼感染症の診断と治療 第60回日本臨床眼科学会 2006.10.6 京都
11. 秦野 寛：小児外眼部感染症を探る 第60回日本臨床眼科学会 2006.10.7 京都
12. 秦野 寛：眼部細菌感染症—結膜炎と角膜炎の病態を中心に— 東京歯科大学眼科セミナー 2006.10.19 千葉
13. 秦野 寛：外眼部感染症—結膜炎と角膜炎の病態を中心に— 小平市眼科医会勉強会2007.3.19 吉祥寺
14. 秦野 寛：細菌性結膜炎および角膜炎の診断と治療 第1回ALCONテレフォンカンファランス 2007.4.12 藤沢
15. 秦野 寛：角・結膜炎のいま、むかし 第111回日本眼科学会総会 イブニングセミナー 2007.4.19 大阪
16. 秦野 寛：細菌性結膜炎および角膜炎の診断と治療 千代田区眼科例会 2007.5.11 東京
17. 秦野 寛：ocular infection navigator—正しい検体の出し方— 第46回日本白内障学会総会 第22回日本眼内レンズ屈折手術学会総会 イブニングセミナー 2007.6.30 愛媛
18. 秦野 寛：細菌性眼感染症治療の最(?)前線



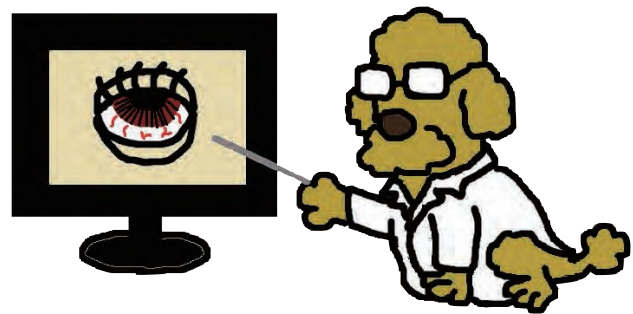
- 第44回日本眼感染症学会イブニングセミナー
2007.7.6 東京
19. 秦野 寛：角膜感染症の診断と治療 平塚市眼科
医会学術講演会 2007.7.19 平塚
20. 秦野 寛：周術期感染対策 術中(術直後含む)の
感染対策 第61回日本臨床眼科学会 イブニン
グセミナー 2007.10.11
21. 秦野 寛：周術期管理における抗菌薬の使い方
第20回眼感染症セミナー 2007.11.30 東京
22. 秦野 寛：眼感染症 戸塚 Eye Conference
2007.12.21 戸塚
23. 秦野 寛：ズバリ！細菌性角膜炎 治療戦略の課
題と抗菌点眼薬の評価 第32回日本角膜学会
第24回日本角膜移植学会 ランチョンセミナー
2008.2.28 東京
24. 秦野 寛：角結膜 第2回四国Eyeランドセミナー
2008.5.17 香川
25. 秦野 寛：私の信じるEBM 白内障術後眼内炎
対策 切開前の対策 第47回日本白内障学会総
会・第23回日本眼内レンズ屈折手術学会総会
ランチョンセミナー 2008.6.20 東京
26. 秦野 寛：細菌性結膜炎 第45回日本眼感染症
学会 ランチョンセミナー 2008.7.4 福岡
27. 秦野 寛：塗抹検鏡講座 スリーサムサテライト
スキルトランスファー 2008.7.6 福岡
28. 秦野 寛：解決!難治性角膜感染症 緑膿菌感染
症 第62回日本臨床眼科学会 イブニングセミ
ナー 2008.10.24
29. 秦野 寛：難治性結膜炎・特殊細菌編 淋菌 第
113回日本眼科学会総会 ランチョンセミナー
2009.4.17
30. 秦野 寛：術後眼内炎対策プラスアルファ 第
48回日本白内障学会総会・第24回日本眼内レ
ンズ屈折手術学会総会 ランチョンセミナー
2009.6.27 東京
31. 秦野 寛：塗抹検鏡講座 スリーサムサテライト
スキルトランスファー 2009.7 東京
32. 秦野 寛：子供の目の感染症～治療のポイントは
ここ～ 第19回日本外来小児科学会年次集会 ラ
ンチョンセミナー 2009.8.29 大宮
33. 秦野 寛：眼感染症治療の最前線 第63回日本
臨床眼科学会 モーニングセミナー 2009.10.
11福岡
34. 秦野 寛：インストラクションコース9 実践!手
術するなら病理検査と細胞診 擦過・吸引塗抹の

- 細胞診 第33回日本眼科手術学会 2010.1.22
東京
35. 秦野 寛：角膜感染症―過去・現在・未来― 細
菌性角膜炎 第53回日本コンタクトレンズ学会
総会 イブニングセミナー 2010.7.9 東京
36. 秦野 寛：塗抹検鏡講座 第33回日本眼感染症
学会 塗抹インストラクションコース 2010.7.
10 東京
37. 秦野 寛：第2回瀬戸内コロシウム 術後眼内炎
の予防と治療 2010.10.10 広島
38. 秦野 寛：「塗抹・吸引塗抹の細胞診」 第34回
日本眼科手術学会総会 教育セミナー 2011.1.
29京都
39. 秦野 寛：「塗抹・吸引塗抹の細胞診」 第35回日
本眼科手術学会総会 教育セミナー 2012.1.
28名古屋
40. 秦野 寛：「眼科領域における緑膿菌眼感染症の
特徴と対策」 第46回緑膿菌感染症研究会 教育
講演 2012.2.17 東京
41. 秦野 寛：「角膜感染症の診断と治療」横浜鶴見区
神奈川区合同眼感染症講演会 2012.3.23 横浜
42. 秦野 寛：角膜移植の話 ライオンズ アイバン
クサポートセミナー 2012.11.2 横浜
43. 秦野 寛：塗抹検鏡の実習と講演 第3回OSKA
の会 2013.11.28 横浜
44. Hatano H : Bacterial conjunctivitis in JAPAN,
WOC morning seminar 2014.4.5 Tokyo
45. 秦野 寛：眼感染症の未来への指針 第52回日
本眼感染症学会 ランチョンセミナー 2015.7.
11 大阪
46. 秦野 寛：眼科領域におけるヨード製剤 第52
回日本眼感染症学会 イブニングセミナー
2015.7.11 大阪
47. 秦野 寛：塗抹検鏡講座 第52回日本眼感染症
学会 塗抹インストラクションコース 2015.7.
11 大阪
48. 秦野 寛：角膜炎の診断―感染症と非感染症 教
育セミナー「眼科専門医志向者トレーニングコー
ス」 第120回日本眼科学会総会 2016.4.9
仙台
49. 秦野 寛：写真で見る感染性角膜炎の診断と治療
横浜・横須賀クリニカルワークショップ～明日の
診療に役立つ勉強会Part2～ 2016.11.16 横浜

〈一般講演〉

1. 平岡恵里、宇野敏彦、鈴木 崇、白石 敦、秦野
寛、越智理恵、大橋裕一：緑膿菌角膜炎の初期臨
床像 第35回角膜学会総会・第27回日本角膜移
植学会 2011.2.17 東京
2. 秦野 寛、秦野響子：日帰り角膜移植14年153
眼の小括 第3回神奈川眼科学会 2011.4.24
横浜
3. 宮永嘉隆、中川 尚、秦野 寛、井上賢治：新し
いアデノウイルス迅速診断法「クイックナビ-ア
デノ」の臨床評価 第48回日本眼感染症学会
2011.7.8 京都
4. 秦野響子、秦野 寛：原液と希釈ポビドンヨード
の眼部皮膚消毒効果の比較 第35回日本眼科手
術学会 2012.1.29 名古屋
5. 秦野 寛、秦野響子：日帰り角膜移植15年156
眼の小括 第36回日本角膜学会総会・第28回日
本角膜移植学会 2012.2.25 東京
6. 秦野 寛、坂本雅子、林 一夫、神谷正剛：PA
ヨード消毒剤の微生物不活化における温度、濃
度、時間の影響 第49回日本眼感染症学会
2012.7.14 横浜

7. 西澤きよみ、後藤さや香、秦野 寛：コリネバク
テリウム眼感染症の4例 第49回日本眼感染症学
会 2012.7.14 横浜
8. 加藤陽子、中川 尚、秦野 寛、水木信久：淋菌
性結膜炎と鑑別を要したブランハメラ結膜炎の1
例 第49回日本眼感染症学会 2012.7.14 横浜
9. 秦野 寛：自院における角膜移植157眼におけ
る緑内障 Yokohama Glaucoma Meeting
2013.11.8 横浜
10. Hiroshi Hatano, Masako Sakamoto,
Kazuo Hayashi, Seigo Kamiya : PAiodine
Antimicrobial effects of Polyvinyl Alcohol
- Iodine inclusion compound with special
references to its temperature, concentration
and time. WOC2014, April 2014, Tokyo
11. 秦野 寛、末松敏秀、松崎 薫、小山英明、岸
直子、松本 哲：細菌性外眼部感染症分離菌株の
10年にわたる抗菌薬感受性動向(2005年～2014
年) 第120回日本眼科学会総会 2016.4.8 仙台
12. 秦野 寛、山添克弥：10日間連続結膜擦過標本
を施行したアデノウイルス結膜炎の1例 第53回
日本眼感染症学会 2016.7.2 東京



column コラム

⑫国栄利は国英理

自分が総理大臣だったら、小中学生の教育は国を栄え利するために、国語、英語、理科の履修に力を入れる。日本人の最終的定義は日本語を主言語として使う人だと思う。古典を中心とした徹底した国語教育が日本人の基礎となる。次いで逆説めくが日本語や日本文化を守るためにこそ英語が必要である。異国人を英語で論破せねばならない。英語が使えなければ国際会議で欠席裁判を受ける。その場にいっても英語を自在に喋れなければいけないのと同じだ。大事なことは会議テーブルで決まるのではない。休み時間のフロアでのやり取り、つまりロビーでグループができ多数派工作で決まってしまう。英語を喋れない国は蚊帳の外である。国内の学会でも半分の演題は英語バージョンでいいと思う。最後は、なんといっても理科、つまり科学である。これは、ノーベル物理学賞に繋がる。そして、最先端の科学技術が最先端の国防技術を保障する。今のノーベル賞ラッシュは過去の理科教育の遺産だ。最近、理科の授業数がカットされている。科学者を目指す少年を増やすべきだ。国の将来が危ない。



当院勤務医師の業績

■ 山添克弥 〈英語論文〉

1. Yamazoe K, Den S, Yamaguchi T, Tanaka Y, Shimazaki J: Severe donor-related Candida keratitis after Descemet's stripping automated endothelial keratoplasty. Gfaefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2011;249:1579-1582.
2. Yamazoe K, Yamaguchi T, Hotta K, Satake Y, Konomi K, Den S, Shimazaki J: Outcomes of cataract surgery in eyes with a low corneal endothelial cell density. J Cataract Refract Surg 2011;37:2130-2136.
3. Yamazoe K, Shimazaki-Den S, Otaka I, Hotta K, Shimazaki J: Surgically induced necrotizing scleritis after primary pterygium surgery with conjunctival autograft. Clin Ophthalmol 2011;5:1609-1611.
4. Yamazoe K, Yamamoto Y, Shimazaki-Den S, Shimazaki J: Visual outcome in Japanese patients with Acanthamoeba keratitis. Eye (Lond) 2012;26:517-522.
5. Yamazoe K, Yamazoe K, Shinozaki N, Shimazaki J: Influence of the precutting and overseas transportation of corneal grafts for Descemet stripping automated endothelial keratoplasty on donor endothelial cell loss. Cornea 2013;32:741-744.

6. Yamazoe K, Yamazoe K, Shimazaki-Den S, Shimazaki J: Prognostic factors for corneal graft recovery after severe corneal graft rejection following penetrating keratoplasty. BMC Ophthalmol 2013;13:5.
7. Yamazoe K, Yamazoe K, Yamaguchi T, Omoto M, Shimazaki J: Efficacy and safety of systemic tacrolimus in high-risk penetrating keratoplasty after graft failure with systemic cyclosporine. Cornea 2014;33:1157-1163.
8. Yamazoe K, Yoshida S, Yasuda M, Hatou S, Inagaki E, Ogawa Y, Tsubota K, Shimmura S: Development of a Transgenic Mouse with R124H Human TGFBI Mutation Associated with Granular Corneal Dystrophy Type 2. PLoS One 2015;10:e0133397.

〈和文論文・執筆〉

1. 山添克弥、桑原一宏、横田敏彦：ステロイドパルス療法と球後照射が著効したバセドウ病眼症の1例 倉敷中央病院年報 70：211-215、2008
2. 山添克弥、横田怜二、横山恭典、堀田順子、堀田一樹：神経線維腫症1型に網膜色素変性症を合併した姉弟例 臨床眼科 63：1623-1629、2009
3. 山添克弥、横田怜二、堀田順子、堀田一樹：結膜悪性黒色腫切除後に生じた嚢胞様黄斑浮腫の1例 あたらしい眼科28：1343-1347、2011

4. 山添克弥、山口剛史：【7パターンで見ると！眼内レンズ選択までの流れ】眼内レンズ処方の流れ（パターン1）非球面眼内レンズ 眼科ケア13：538-541、2012
5. 山添克弥、横田怜二、堀田順子、堀田一樹：円錐角膜に原因不明の網膜ジストロフィが合併した1例 あたらしい眼科29：863-868、2012
6. 加藤寛彬、横田怜二、山添克弥、江本宜暢、堀田一樹：Werner症候群の嚢胞様黄斑浮腫にトリウムシノロンアセトニド硝子体内注射が奏功した1例 臨床眼科69：1521-1526、2015
7. 加藤寛彬、横田怜二、山添克弥、堀田一樹：Epstein-Barrウイルスの関与が疑われた両眼性毛様体剥離の1例 臨床眼科70：767-772、2016

〈海外学会発表〉

1. Yamazoe K, Yamamoto Y, Den S, Shimazaki J: Factors Affecting Visual Outcome in Acanthamoeba Keratitis Treated With Topical Chlorhexidine Gluconate. The Association for Research in Vision and Ophthalmology 2010 Annual Meeting, Ft Lauderdale, Florida, 2010/5/4.
2. Yamazoe K Den S, Tanaka Y, Hotta K, Shimazaki J: Donor-related candida keratitis after descemet stripping automated endothelial keratoplasty. 6th International Conference on the Tear Film and Ocular Surface, Florence, Italy, 2010/9/22-25.
3. Yamazoe K, Yamaguchi T, Hotta K, Den S, Shimazaki J: Outcome of cataract surgery in cases with low endothelial cell density. The Association for Research in Vision and Ophthalmology 2011 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida, 2011/5/1-5.
4. Hatano K, Yamazoe K, Yamaguchi T, Omoto M, Den S, Konomi K, Shimazaki J: Efficacy and safety of systemic tacrolimus in high-risk penetrating keratoplasty. The Association for Research in Vision and Ophthalmology 2011 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida, 2011/5/1-5.
5. Higa K, Satake Y, Tomida D, Yamazoe K, Hayashi T, Toriyama N, Shimazaki

J: Immunohistochemical alterations in cicatricial conjunctivitis associated with Behcet's disease. The Association for Research in Vision and Ophthalmology 2013 Annual Meeting. Seattle, Washington, U.S.A., 2013/5/5-9.

6. Yamazoe K, Yoshida S, Hatou S, Yasuda M, Inagaki E, Ogawa Y, Tsubota K, Shimura S: Development of a transgenic mouse with R124H human TGFBI mutation associated with Avellino corneal dystrophy. The Association for Research in Vision and Ophthalmology 2015 Annual Meeting. Denver, CO, U.S.A., 2015/5/3-7.
7. Yoshida S, Yamazoe K, Yasuda M, Tsubota K, Shimmura S: iPSC-derived neural crest cells accelerate scarless wound healing. Gordon Research Conference. Ventura, CA, U.S.A., 2016/2/28-3/4.
8. Yoshida S, Yamazoe K, Yasuda M, Tsubota K, Shimmura S: iPSC-derived neural crest cells accelerate scarless wound healing. 14th International Society for Stem Cell Research (ISSCR) 2016 Annual Meeting. San Francisco, U.S.A., 2016/6/22-25.

〈国内学会発表・講演〉

1. 山添克弥、横田怜二、横山恭典、佐藤大介、井上亮、江本宜暢、堀田順子、堀田一樹：神経線維腫症1型に網膜色素変性症を合併した姉弟例 第62回日本臨床眼科学会 2008.10.23-26 東京
2. 山添克弥、山本祐介、島崎 潤：アカントアメーバ角膜炎の予後に影響を及ぼす因子の検討 第63回日本臨床眼科学会 2009.10.9-12 福岡
3. 横田怜二、山添克弥、井上亮、鎗田理沙、江本宜暢、横山恭典、堀田順子、堀田一樹：網膜色素上皮層を原発とする水痘・帯状疱疹ウイルス網膜炎の1例 第63回日本臨床眼科学会 2009.10.9-12 福岡
4. 山添克弥、今居由佳理、山口剛史、田 聖花、島崎潤：角膜内皮移植後に移植片由来真菌性角膜炎を発症した一例 第34回角膜カンファランス・第26回日本角膜移植学会 2010.2.11-13 仙台
5. 山添克弥、田 聖花、堀田一樹、島崎 潤：角膜内皮移植後に移植片由来真菌性角膜炎を発症した

column コラム

⑬裸の王様

自分は医師として自らの治療方針などを学会標準に沿って修正したり、人としてスポイルされないために、いつも意識している寓話がある。「裸の王様」である。所詮、医者（特に個人開業医）は自院という城に籠る王様である。そして、学会が城外、つまり少年が大勢いる街の往来だと思う。裸のわが身に気づくには、常に自分を少年に見てもらう必要がある。学会を重視し自分の鏡にすべきである。自院のお得意様患者、親しいマスコミ、著名人などに囲まれた城内でしか仕事をしない、いわゆる有名タレント医師は学会に出てこない。少年に見られるのが怖いのかもしれない。医学知識の大筋は文字情報でも得られる。しかし、臨床医学で重要なのは「但し書き」である。それは専門家のディスカッションの場、つまり学会以外では得られない。本の通りやったら危険である。学会は医者の国会である。これは若年医師へのアドバイスでもある。



- 1例 第1回コルネアの鉄人 2010.8.2 東京
6. 山添克弥、山口剛史、田 聖花、堀田一樹、島崎 潤：角膜内皮細胞減少例に対する白内障手術 第64回日本臨床眼科学会 2010.11.11-14 神戸
7. 山口剛史、許斐健二、溜裕美子、平山雅敏、山添克弥、榛村真智子、大本雅弘、田 聖花、市橋慶之、佐竹良之、島崎 潤：非典型例におけるDSAEKの早期手術成績 第64回日本臨床眼科学会 2010.11.11-14 神戸
8. 山添克弥、田 聖花、大高 功、堀田一樹、島崎 潤：翼状片術後に発症したSurgically induced necrotizing scleritisの1例 第34回日本眼科手術学会 2011.1.28-30 京都
9. 山添克弥、秦野響子、田 聖花、堀田一樹、島崎 潤：全層角膜移植後拒絶反応の予後 第35回角膜カンファランス・第27回日本角膜移植学会 2011.2.17-19 東京
10. 秦野響子、山添克弥、山口剛史、大本雅弘、田聖花、許斐健二、島崎 潤：全層角膜移植ハイリスク例に対するタクロリムス全身投与の効果と安全性 第35回角膜カンファランス・第27回日本角膜移植学会 2011.2.17-19 東京
11. 山添克弥：角膜移植後拒絶反応の予後因子の検討 第257回千葉眼科集団会 2011.3.13 千葉
12. 山添克弥、山口剛史、堀田一樹、島崎 潤：滴状角膜を伴う角膜内皮減少例に対する白内障手術 第50回日本白内障学会総会・第26回日本白内障屈折矯正手術学会総会 2011.6.17-19 福岡
13. 山添克弥、江本宜暢、横山恭典、堀田順子、堀田一樹：特発性黄斑円孔に対する空気タンポナーデを用いた硝子体手術の治療成績 第65回日本臨床眼科学会 2011.10.7-10 東京
14. 井上 亮、成田 信、山添克弥、笹井英明、堀田順子、堀田一樹：角結膜扁平上皮癌の術中切除範囲の決定にトリパンプルー染色を使用した1例 第34回日本眼科手術学会 2012.1.127-29 名古屋
15. 山添克弥、太田 優、堀田一樹、島崎 潤：術後デスメ膜剥離を要したnDSAEKの1例 第36回角膜カンファランス・第28回日本角膜移植学会 2012.2.23-25 東京
16. 秦野響子、山添克弥、富田大輔、林 孝彦、溜裕美子、榛村真智子、田 聖花、許斐健二、佐竹良之、島崎 潤：テリエン角膜辺縁変性に対してC字型表層角膜移植を施行した1例 第36回角膜カンファランス・第28回日本角膜移植学会 2012.

- 2.23-25 東京
17. 江本宜暢、山添克弥、鎗田理沙、笹井英明、堀田順子、堀田一樹：VDT作業者におけるジクアホソルナトリウム点眼液の効果 第67回日本臨床眼科学会 2013.10.31-11.3 横浜
18. 山添克弥、江本宜暢、堀田順子、堀田一樹：VDT作業者の眼自覚症状の特徴とジクアホソルナトリウム点眼液の効果 第38回角膜カンファランス・第30回日本角膜移植学会 2014.1.30-2.1 宜野湾市
19. 山添克弥、江本宜暢、鎗田理沙、笹井英明、堀田順子、堀田一樹：VDT作業者のBUTとジクアホソルナトリウム点眼液の効果 第118回日本眼科学会総会 2014.4.2-6 東京
20. 加藤寛彬、横田怜二、山添克弥、江本宜暢、堀田一樹：Werner症候群の嚢胞様黄斑浮腫にトリアムシノロンアセトニド硝子体内注射が奏功した1例 第68回日本臨床眼科学会 2014.11.13-16 神戸
21. 山添克弥、吉田 悟、羽藤 晋、安田実幸、稲垣絵海、小川葉子、坪田一男、榛村重人：ヒトR124H変異型TGFB1遺伝子を用いたAvellino角膜ジストロフィモデルマウス作製と解析 第39回角膜カンファランス・第31回日本角膜移植学会 2015.2.11-13 高知
22. 山添響子、山添克弥、秦野 寛：タクロリムス点眼が著効したThygeson点眼表層角膜炎の3症例 第39回角膜カンファランス・第31回日本角膜移植学会 2015.2.11-13 高知
23. 加藤寛彬、横田怜二、久須美有美、山添克弥、笹井英明、堀田順子、堀田一樹：Epstein-Barrウイルスの関与が疑われた両眼性毛様体剥離の1例 第69回日本臨床眼科学会 2015.10.22-25 名古屋
24. 山添克弥、吉田 悟、坪田一男、榛村重人：Semaphorin3A阻害薬ビナキサントンのドライアイ治療への応用の検討 第40回角膜カンファランス・第32回日本角膜移植学会 2016.2.18-20 軽井沢
25. 秦野 寛、山添克弥：10日間連続結膜擦過標本を施行したアデノウイルス結膜炎の1例 53回日本眼感染症学会 2016.7.2 東京
26. 加藤寛彬、山添克弥、久須見有美、堀江大介、堀田順子、横田怜二、堀田一樹：難治性原田病にトリアムシノロンアセトニド局所注射を併用した1

- 例 第70回日本臨床眼科学会 2016.11.3-6 京都
27. 山田梨佳、山添克弥、久須美有美、横田怜二、堀田順子、堀田一樹：ステロイド治療で視機能改善を示した癌関連網膜症と思われる1例 第55回日本網膜硝子体学会総会 2016.12.2-4 東京

■ 山添 響子

〈英語論文〉

1. Yamazoe K, Yamazoe K, Shinozaki N, Shimazaki J: Influence of the precutting and overseas transportation of corneal grafts for Descemet stripping automated endothelial keratoplasty on donor endothelial cell loss. Cornea 2013;32:741-744.
2. Yamazoe K, Yamazoe K, Shimazaki-Den S, Shimazaki J: Prognostic factors for corneal graft recovery after severe corneal graft rejection following penetrating keratoplasty. BMC Ophthalmol 2013;13:5.
3. Yamazoe K, Yamazoe K, Yamaguchi T, Omoto M, Shimazaki J: Efficacy and safety of systemic tacrolimus in high-risk penetrating keratoplasty after graft failure with systemic cyclosporine. Cornea 2014;33:1157-1163.

〈和文論文・執筆〉

1. 秦野響子、秦野 寛：原液と希釈ポビドンヨードの眼部皮膚消毒効果の比較 あたらしい眼科28：1473-1476、2011
2. 山添響子：【眼科1年生が聞きたい！知りたい！目の病気と検査】病気編 ドライアイ(眼精疲労) 眼科ケア14：413-416、2012

〈海外学会発表〉

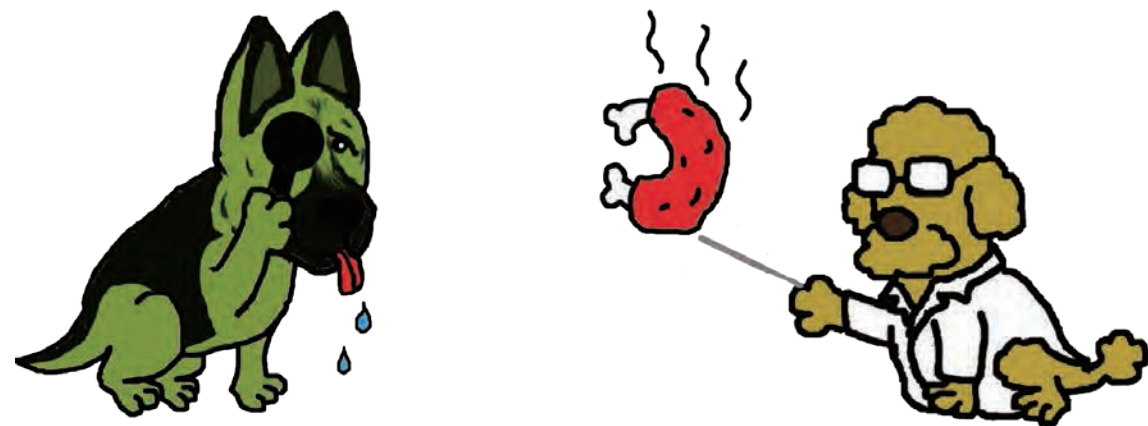
1. Hatano K, Yamazoe K, Yamaguchi T, Omoto M, Den S, Konomi K, Shimazaki J: Efficacy and safety of systemic tacrolimus in high-risk penetrating keratoplasty. The Association for Research in Vision and Ophthalmology 2011 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida, 2011/5/1-5.

〈国内学会発表〉

1. 秦野響子、伊藤理会子、渡邊洋一郎、荒川 明、門之園一明：液体パーフルオロカーボンの黄斑部網膜下迷入症例に対する再手術 第32回日本眼科手術学会 2009.1.23-25 神戸
2. 秦野響子、藪下麻里江、井上麻衣子、小林 聡、山根 真、平井香織、渡邊洋一郎、門之園一明、中嶋京子：小切開硝子体手術後の涙液における炎症性サイトカイン濃度のフローサイトメトリー解析 第114回日本眼科学会総会 2010.4.15-18 名古屋
3. 秦野響子、山添克弥、山口剛史、大本雅弘、田聖花、許斐健二、島崎 潤：全層角膜移植ハイリスク例に対するタクロリムス全身投与の効果と安全性 第35回角膜カンファランス・第27回日本角膜移植学会 2011.2.17-19 東京
4. 山添克弥、秦野響子、田 聖花、堀田一樹、島崎 潤：全層角膜移植後拒絶反応の予後 第35回角膜カンファランス・第27回日本角膜移植学会 2011.2.17-19 東京
5. 秦野 寛、秦野響子：日帰り角膜移植14年153眼の小括 第3回神奈川眼科学会 2011.4.24 横浜
6. 許斐健二、加藤直子、平山雅敏、秦野響子、島崎 潤：角膜クロスリンキングを行った進行性円錐角膜の8例 第65回日本臨床眼科学会 2011.10.7-10 東京
7. 秦野響子、秦野 寛：原液と希釈ポビドンヨードの眼部皮膚消毒効果の比較 第35回日本眼科手術学会総会 2012.1.27-29 名古屋
8. 秦野響子、山添克弥、富田大輔、林 孝彦、溜裕美子、榛村真智子、田 聖花、許斐健二、佐竹良之、島崎 潤：テリエン角膜辺縁変性に対してC字型表層角膜移植を施行した1例 第36回角膜カンファランス・第28回日本角膜移植学会 2012.2.23-25 東京
9. 秦野 寛、秦野響子：日帰り角膜移植15年156眼の小括 第36回日本角膜学会総会・第28回日本角膜移植学会 2012.2.25 東京
10. 溜裕美子、富田大輔、林 孝彦、秦野響子、許斐健二、佐竹良之、島崎 潤：Boston keratoprosthesis移植後の前眼部OCTによる解析 第36回角膜カンファランス・第28回日本角膜移植学会 2012.2.23-25 東京
11. 富田大輔、林 孝彦、秦野響子、溜裕美子、榛村



- 真智子、許斐健二、田 聖花、佐竹良之、島崎 潤：DSAEK術後の角膜厚の前眼部OCTによる解析 第36回角膜カンファランス・第28回日本角膜移植学会 2012.2.23-25 東京
12. 伊勢田博之、秦野響子、田 聖花、島崎 潤：BUT短縮型ドライアイに対するジクアホソルナトリウム点眼の効果 第36回角膜カンファランス・第28回日本角膜移植学会 2012.2.23-25 東京
13. 田 聖花、伊勢田博之、秦野響子、村戸ドール、島崎 潤：ジクアホソルNa点眼がドライアイ疑い例の涙液機能および自覚症状に及ぼす影響 第116回日本眼科学会総会 2012.4.5-8 東京
14. 許斐健二、加藤直子、山添響子、平山雅敏、富田大輔、林 孝彦、溜裕美子、島崎 潤：角膜クロスリンクを行った進行性円錐角膜の11例 第66回日本臨床眼科学会 2012.10.25-28 京都
15. 山添響子、山添克弥、秦野 寛：タクロリムス点眼が著効したThygeson点眼表層角膜炎の3症例 第39回角膜カンファランス・第31回日本角膜移植学会 2015.2.11-13 高知

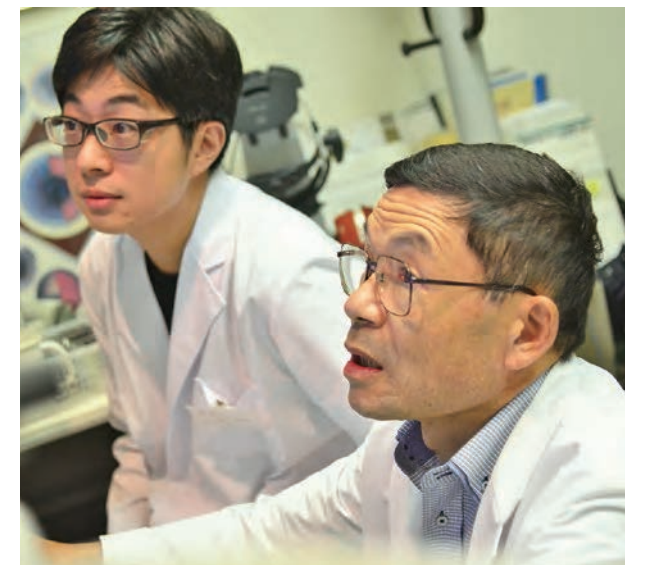
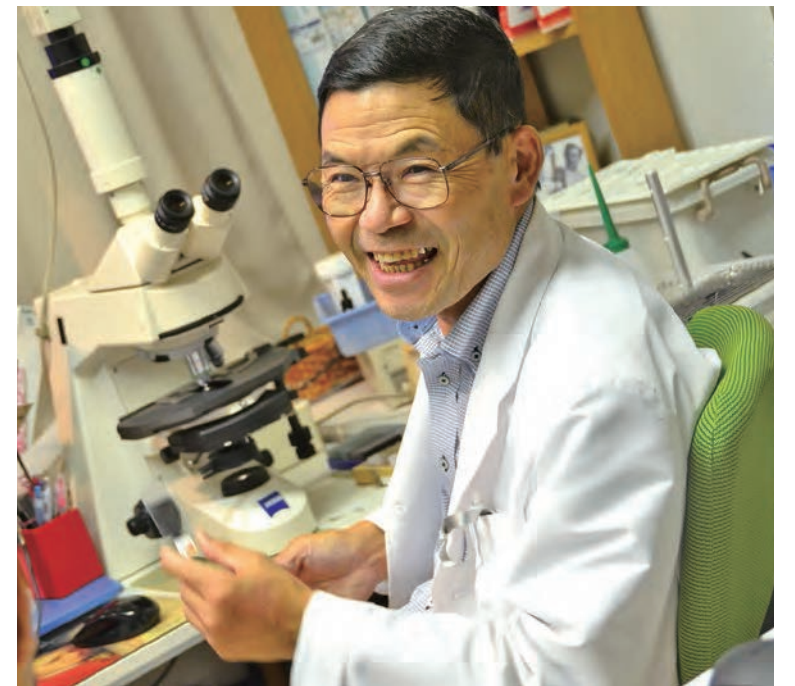


column コラム

⑭ヨード剤の深謀遠慮

自分は最近、専門領域である感染症対策としてヨード剤の評価を急いでいる一人である。さしあたり耐性菌対策であり、また専用点眼薬がないウイルス、真菌、アメーバなど広範囲の不明微生物をカバーできる汎用性に期待してのことである。世界中の大製薬メーカーが感染症薬の開発を減速させている。儲からない。

自分はこれからの国防で意外と重要なのが、国境線ではなく新型インフルエンザと放射能と考える。人口が1千万単位で減少する。人の居ない土地には異邦人が勝手に入ってくる。高病原性新型インフルエンザ(H5N1)の大流行死と津波原発災害によっておこる放射性ヨード^{I¹³¹}による若年者の甲状腺癌である。事態は急に襲い、ともに若年者ほど炎症と被害が強い。少子高齢化の再加速だ。パンデミックワクチンは間に合わない。一矢報えるのがヨードである。抗ウイルス効果と放射性ヨード^{I¹³¹}ブロック効果を持つ。うがいだけでなく、治療としてネブライザーで肺胞まで注入できないだろうか。臨床家がヨード剤の需要供給に関心を持ち、医院と薬局にたくさんある日常を作っておくべきではないか。内科は消毒薬に無関心だ。先ず隅より始めよ。眼科でやろう。日本は千葉中心にヨード生産量世界第二位だ。世界も救えるかもしれない。老眼治療もよいが、老人福祉優先はこころもとない。若者が大切だ。



column コラム

⑮診療・研究・教育

「診療」は義務である。これは、いわば臨床家全員の仕事である。質と量の差はあるが、医者卒年、上下、身分にかかわらず定期の業務である。元々、診療は全医療機関の収入源だから生活上当然である。「研究」は遊びである。もちろん、仕事としてやっている研究者は大勢いる。しかし、もともと飽くなき興味が持続しなければ碌な研究はできない。「何事も面白がってやるやつには、絶対かなわない。」そういう世界である。最後の「教育」はもっとも、敬虔で崇高な事業である。これがなくとも、今日は無事過ぎていく。しかし、これがなければ、明日はない。診療と研究の結果は常にそこそこ出さないと、世間が見ている。教育の有無は、さしあたる世間体には響かない。ここが、盲点である。長嶋チルドレンや中畑チルドレンが、藤田監督やラミレス監督の業績をもたらしたことを軽視してはならない。



思い出の書評・掲載誌・論文

平野 耕 治

(藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院眼科)

眼科を初診で訪れる患者の主訴として、眼が赤い、眼脂が出る、は非常に大きいウエイトを占めている。こうした患者を目の前にして、「はやりめ」の除外診断ができれば、あとは抗菌剤の点眼を処方しておく。私たちはこのパターンでの診療に終始してはいないか。しかし、「風邪は万病の元」と同じく、「赤い目」「めやに」には重要な情報が隠されていることが多く、これらの現象を科学的に捉えてゆくことが結膜疾患だけでなく、その背後にある要因の精確な診断と治療につながることになる。

金原出版の「身につくシリーズ」では、研修医や眼科臨床医が図を見ながら自然と検査手技や知識が身につくように各分野の専門家がシェーマ、イラストや写真を多用して記載されている。そのシリーズの中で、本書は結膜疾患と感染性眼疾患診療でのわが国の第一人者である秦野 寛先生が、「初学者に対する結膜の教科書」を目指して書かれている。

結膜疾患を診る際の基本的なスタンスとして、所見から、これが「炎症か変性か」、炎症なら「感染か非感染か」、変性ならば「変性症か腫瘍か」のいずれのカテゴリーに入れられるべきなのかを大別してゆくことが疾患対応の入り口となる。本書では、こうした疾患の捉え方の基本から始まって、結膜の解剖と生理、擦過塗抹検査の実際、そして結膜の消毒方法など、私たちが本来十分理解して実践してゆかなくてはならない知識や手技についてを前半で述べており、後半では感染性結膜炎、非感染性結膜炎、変性疾患、結膜の腫瘍について述べられている。

「身につくシリーズ」の編集方針もあり、全体を通して図や写真が多く、視覚情報から理解しやすく工夫されている。本書後半の疾患各論でも、写真を見てそれぞれの疾患をパターンとして捉えてゆくこともできるが、やはり大切なのは、患者の訴えや症候をどう考えて、塗抹検査からどれだけの情報をえてゆくか、であろう。そのため、本書では前半の総論が約半分を占めている。とくに「IV.診断」と「VI.結膜の消毒」の項については、前眼部疾患や感染症を専門にしていなくとも、今後抗VEGF抗体の硝子体内注射を担当される可能性のある先生方には必要な知識と思われる。こ



「身につく 結膜疾患の診断と治療」
秦野寛 著 金原出版 (2012年10月発行)
定価 7,000 円 (税別) B5 判 144 頁

うした重要な情報については、「眼感染症診断の七五三」「眼脂はBMW、充血はメルセデス・ベンツ」「消毒の3要素・温濃時(おんのうじ)の変」といった絶妙の(オヤジギャグを上手に回避した)標語がちりばめられて、患者を目の前にした際に即時に思い出せるような工夫も されている。

それにしても結膜疾患とくに感染性結膜炎の主立ったものは殆ど秦野先生ご自身の記録された写真で示されており、Proctorからの提供ではあるものの、急性期のトラコーマの写真まで掲載されている。結膜疾患の入門書的な本ではありながら、写真だけを見ても内容の濃い力作であり、この分野のトップランナーとして走ってこられた秦野先生が、ご自身のライフワークをまとめて伝えているような意義を感じる書である。したがって、「奥義を伝える巻物」。本書を読んでみて、そんな言葉が浮かんできた。

【転載】日本眼科医会「日本の眼科」85巻、7号、2014年7月、216ページ

眼感染症物語—私の履歴書

先人が残した偉大な功績を敬いつつ、 確固たる信念をもって邁進し続ける

秦野 寛 ルミネはたの眼科

田中直彦先生との出会い

自分が眼科を選択した頃の話から始めたい。もともと、高いスペシャリティーの内科的・外科的治療手段を併せ持つ眼科学に対しては、横浜市大の医学生頃から少なからず関心を寄せていた。こうしたなか、臨床系では初めて卒業生の田中直彦先生が眼科学の教授に就任された。医局をたずねて田中先生に話を伺ううち、先生が神奈川県立湘南高校の先輩であることがわかり、歓談するうちに引つ込みがつかなくなってしまった。先生の魅力的な人間性はもちろんだが、偶然性も大きな後押しとなり眼科の道に進むことになった。



在りし日の田中直彦先生(左)と(Lake Tahoeで)

出張病院で眼内炎に遭遇

眼科に入局した当時、教授の田中先生はヘルペスや緑膿菌による角膜感染症を専門に研究しておられ、教室の先輩たちも日夜動物実験に明け暮れていた。そういう雰囲気の中で、眼感染症はある種身近な存在であった。その後、研修中の市中病院で日曜日に救急受診した緑内障術後濾過胞感染に遭遇した。翌日、オーペンと真っ白に混濁した硝子体を顕微鏡下に確認したときの衝撃はいまだに忘れられない。患者さんの顔と名前は今でも覚えている。この症例が小生を眼内炎の基礎病態解明へと導く大きな契機になった。

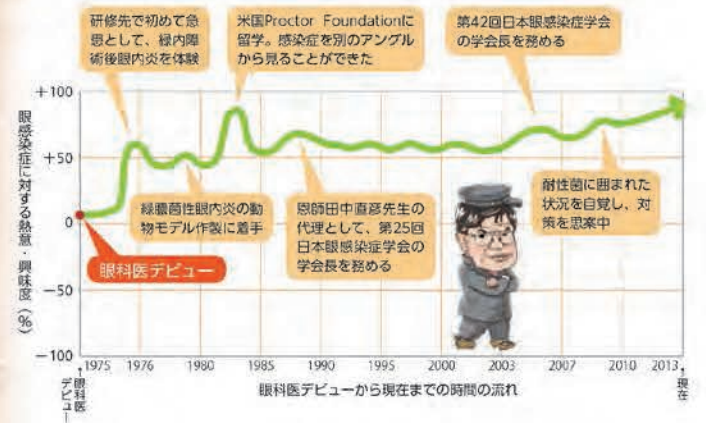
大学に戻ったところ、先輩たちによって緑膿菌の研究システムが完備されており、数十株の素性の知れた緑膿菌株が蓄積されていた。早速、緑膿菌の幾株かをウサギの前房に接種してみたがほとんど治ってしまい、なかなか硝子体膿瘍にはならなかった。これが小生の学位論文である。今度は硝子体に接種してみると、わずかの菌で簡単に硝子体膿瘍ができてしまい、この大差には驚愕した。自分には抗菌薬以外の硝子体内注入は考えられない。

故きを温ねて新しきを知るロートルの価値

留学先のカリフォルニア大学 (UCSF) 眼科 Francis I. Proctor FoundationでのThygeson先生との出会いもまた、私の人生に大きな影響を与えた。2年間、毎週木曜日に5～6人のfellowに対して夫人とランチクルーズを開いてくださり、眼感染症を学んだ。先生の“Herpes is a benign disease.”が耳に深く残っている。また、ぶどう膜炎カンファランスではトキノなどの感染症からまず診断を進め、VKHやペーチェットが残りのDDであるのには驚いた。

帰国後、田中先生と一緒に第25回日本眼感染症学会に向け、Proctor Foundation所長のDawson先生ほか3名による招待講演を企画した。準備中、田中先生が病に倒れ、お亡くなりになったため、小生が急遽学会長を務めることになった。当日は『故田中直彦教授追悼プロクター講演会』と銘打って開催し、大きな反響を呼んだ。ま

眼感染症への興味曲線



た、応募された一般演題を通覧しプログラム作成を自身でしたこと、自分の専門領域だけでなく真菌やウイルスなど様々な病原体に関する疫学情報をバランスよく把握することの重要性を感じた。感染症では“鳥瞰”が大切である。

2回目の会長を務めた第42回日本眼感染症学会は、眼感染症や眼感染症学会の自分なりのoverlookができていた頃でもあり、第25回の学会とは変わり多分に温故知新を意識した。筆者は日頃から、感染症では他領域に比べ、よりシニアが尊敬、重視されてしかるべきと感じてきた。なぜなら田中先生やThygeson先生をはじめロートルの先輩たちは、治療薬がない前化学療法時代の“感染症の自然経過”を知る貴重な生き証人だからである。



Proctor Foundationのクリーンベンチにて



Thygeson先生ご夫妻と筆者と長女曹子

イメージ化された知識しか役立たない

“待ったなし”の緊急感染症では「イメージ化された知識しか役に立たない」ことを改めて力説しておきたい。小生がしばしば紹介してきた起炎菌などの「語呂合わせ」も忙しい若年医師の学習負担軽減やイメージ形成の一助になれば幸いと思つてのことである。小生には学びや生活面でのポリシーとして幸せなイメージに3つの条件がある。第一は正確、第二は有用、第三は美しいことである。

最後に、これからの感染症の大問題は耐性菌である。“抗菌薬と細菌のイタチゴッコ”が続く。人類は耐性菌には絶対勝てない。抗菌薬はもう限界である。この期に及んで筆者は消毒薬の再評価が必要と感じている。「洗眼と点眼の保険適応」を持つPA・ヨードの有用性を評価せねばならない。第4コーナーを回った自分の最後の仕事である。





思い出の書評・掲載誌・論文

日本眼科学会「日本眼科学会雑誌」106巻、4号、193-194ページ、2002年4月掲載

巻 頭 言

抗菌薬投与の基本戦略

Strategies in Chemotherapy Against Bacterial Eye Infections

秦野 寛

はじめに

戦術は手段、戦略は使い方である。究極は物質と思想の関係である。細菌感染症における戦術の一つは各種抗菌薬であり、戦略は疾患別起炎菌の情報、薬剤感受性、および眼組織移行などから抗菌薬をどう使うかで練られる。感染症ではhost-parasite relationshipが重要である。しかし、実臨床ではさらにdrugを加えてhost-parasite-drug relationshipで考えざるを得ない。当然、抗菌薬投与の基本戦略はこの中で立案される。近年、新興・再興感染症、耐性菌感染症、輸入感染症など環境は流動的であり、その概略知識は戦略上必須と思われる¹⁾。

本稿では起炎菌、耐性菌の現状などに触れ、眼内移行の視点から抗菌薬投与について考えてみたい。本号の関連論文テーマが抗菌薬前房内移行の薬動学的パラメータであるため、疾患については細菌性眼内炎の予防・治療を例に記述する。

起 炎 菌

抗菌薬の使用には正確な細菌学的診断が大前提である。Empirical therapyの中でもevidence-based medicine (EBM)を指向していくのが正しい。最近危惧される傾向の一つは外眼感染症での検出菌と起炎菌の混同である。眼内炎と異なり外眼部の起炎菌断定には根拠が望まれる。犯人(起炎菌)探しの戦略は司法的手法と同じである。私はKochの原則を想起しつつ、次の4点から検討すべきと考える。①培養：間接的アリバイ証明、②塗抹鏡検：細菌の現行犯映像、③常在細菌叢：無実市民の把握、④過去の起炎菌報告：前科者などを総合的に勘案し推定起炎菌と断ずるしかない。中でも塗抹鏡検の重要性を特記したい。

ここで細菌性眼内炎について触れる。近年、眼内レンズ(IOL)手術数の増加に伴いIOL術後眼内炎が問題となってきた。日本での発症率は0.08%程度で稀であるが、医原的側面があるため、一定の医療水準が求められる場合がある。予防治療対策上もその主要起炎菌の現状把握はしておきたい。眼内炎全体の起炎菌は外因性眼内炎がグラム陽性菌、内因性眼内炎がグラム陰性菌優位ではっきりと棲み分けがある²⁾。IOL術後眼内炎では、本邦過去18年間の報告例集計でコアグラゼ陰性ブドウ球

菌(CNS)、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)、腸球菌、P. acnesが4大起炎菌である。戦略上、不可欠基礎情報は正確に研究された常在細菌叢である。原ら³⁾は術前患者の結膜・眼瞼からの好気性・嫌気性培養で、CNS、P. acnesが上位2位であると報告している。

耐 性 菌

MRSAは耐性菌最大の問題である。老人病院入院患者の結膜嚢内黄色ブドウ球菌の56.6%がMRSAであったと報告⁴⁾されている。恐るべき数字である。治療としてバンコマイシン(VCM)、アルベカシンなどが用いられてきたが、最近、VCM低感受性株が報告⁵⁾され、さらにはVCM耐性腸球菌までも報告⁶⁾されている。上述のとおり、MRSAと腸球菌はIOL術後眼内炎の主要起炎菌で、VCM耐性は今後重大問題になる可能性がある。浅利ら⁷⁾は外眼部感染症に頻回に使用される高濃度点眼剤が耐性菌を誘引する一因ともなっていると述べている。

薬物眼内移行

抗菌薬には重要な性格が2つある。それは抗菌力と組織移行性である。核弾頭と巡航ミサイルの関係である。薬動学的パラメータには前房水・血清中濃度などの最高濃度(Cmax)、ピーク値時間(Tmax)、半減期(T1/2)、濃度曲線下面積(area under curve, AUC)などがある。大石ら⁸⁾により長年研究報告され、CmaxとAUCが特に臨床効果と相関するという。従来、これらは点眼については明確な設定がなかった。そこで日本眼感染症学会において、三井ら⁹⁾によって点眼液の薬動学的パラメータとしてのmaximum concentration in the aqueous (AQCMAX)の提案がなされた。点眼後房水中最高濃度である。つまり点眼剤に関しても、抗菌力に加え眼内移行性を指標として治療上の参考とすることが提唱された。具体的には対象病巣が外眼か内眼かで選択薬剤が異なってくる。外眼部の感染症では抗菌力イコール臨床効果であるため、従来、点眼剤の選択は抗菌活性のみでなされてきたがAQCMAX次第では、点眼の眼内炎応用も無意味とはいえない。日本開発のフルオロキノロン剤の成果である。

本号掲載の福田らの論文は系統の異なるレボフロキサシン(LVFX)、クロラムフェニコール(CP)、エリスロマ

イシン(EM)、セフメノキシム(CMX)、ミクロノマイシン(MCR)、スルペニシリン(SBPC)の6剤のAQCMAXを比較している。6剤中LVFXが最高値であり、CP、EMの順で比較的良好である。CMX、MCR、SBPCは算出不可能な低値である。フルオロキノロン系はAQCMAXの高低で2グループに分け得る。LVFX、ロメフロキサシン(LFLX)などは高いAQCMAXを持ち良好な眼内移行から眼内炎応用が期待できる。他方ノルフロキサシン(NFLX)、シプロフロキサシン(CPFX)などは低いAQCMAXであるが、NFLXは結膜嚢内滞留時間が長く、結膜炎に適している¹⁰⁾。データは正常非炎症眼での話である。

細菌性眼内炎の薬剤投与

基本戦略としては全身投与より局所投与が確実である。米国のEndophthalmitis Vitrectomy Study (EVS)¹¹⁾の結論でも薬物の全身投与の効果は比較的否定的である。薬物眼内移行の高低は、高い方から硝子体内注入、結膜下注射、点眼、血行投与(静注、筋注、内服)の順で低下する。結膜下注射は全身投与に対して、1.3倍から27倍(平均8.1倍)良好な硝子体内移行が得られ、眼内炎を眼外から間接的に攻めるには最も重要なルートである¹²⁾。AQCMAXの高い点眼剤では前房感染型眼内炎、例として緑内障濾過手術後眼内炎やIOL術後眼内炎の予防戦術とし有意味である。In vivoの根拠については、ウサギ前房内接種による緑膿菌性眼内炎の感染予防実験で、LFLX点眼が前房内緑膿菌を確かに殺滅でき、対照との間に明瞭な差異が出ている事実がある¹³⁾。

おわりに

1999年4月、感染症新法が施行された。背景は今日の感染症の危機的変化である。感染症は古くて新しい。未知の微生物が新生し、元々あるものも変遷し続ける。バイオフィーム、プリオン、スーパー抗原など新しい学習事項も多い。

今日臨床家の仕事は耐性菌を発生、増加させないことである。人類と細菌はデス・マッチか共存か。薬剤の予防投与には深い思慮が必要である。最良レベルの治療幅は狭く、戦術戦略からみた予防幅は広いからである。国際評価はファイナンスルムーディーズだけではない。移植医療の低迷と並び耐性化率の高さで日本医療が格下げにならないとも限らない。我々はキノロンなど戦術を十分持っている。問題は戦略を誤らないことである。戦術大国、戦略小国日本は万事が危険水域にある。

文 献

- 1) 白井正彦：眼感染症の変遷 感染症クリニック。白井正彦、他(編)：医学書院、東京、1-5、2000。
- 2) 秦野 寛、井上克洋、的場博子、栗田正幸、池田祥子、田川義継、他：日本の眼内炎の現状－発症動機と起炎菌－。日眼会誌95:369-376、1991。
- 3) Hara J, Yasuda F, Higashitsutsumi M: Preoperative disinfection of conjunctival sac in cataract surgery. Ophthalmologica 211 (S1):62-67、1997。
- 4) 大橋秀行、福田昌彦、大島利文：高齢者1000眼の結膜嚢内常在菌。あたらしい眼科15:105-108、1998。
- 5) Hiramatsu K, Aritaka N, Hanaki H, Kawasaki S, Hosoda Y, Hori S, et al: Dissemination in Japanese hospitals of strains of Staphylococcus aureus heterogeneously resistant to vancomycin. Lancet 350:1670-1673、1997。
- 6) Fujita N, Yoshimura M, Komori T, Tanimoto K, Ike Y: First report of the isolation of high-level vancomycin-resistant Enterococcus faecium from a patient in Japan. Antimicro Agents Chemother 42:2150、1998。
- 7) 浅利誠志、岡田伸太郎：多剤耐性菌－最新情報－。あたらしい眼科17:159-165、2000。
- 8) 大石 正夫：眼科感染症と化学療法 Practical Ophthalmology. 文光堂、東京、118-128、2001。
- 9) 三井幸彦、大石正夫、佐々木一之、大橋裕一：点眼液の薬動学的パラメータとしてのAQCMAXの提案。あたらしい眼科12:783-786、1995。
- 10) 北野周作、内田 広：ノルフロキサシン点眼液の結膜嚢内希釈速度に関する研究。あたらしい眼科4:1150-1153、1987。
- 11) Bernard H Doft (林 英之訳)：感染性眼内炎の治療：EVSにおける成績。眼科手術11:179-190、1998。
- 12) Baum, JL: Antibiotic administration in the treatment of bacterial endophthalmitis. I. Periocular injections. Surv Ophthalmol 21:332-346、1977。
- 13) Hatano H, Inoue K, Shiao S, Wang L: Application of topical lomefloxacin against experimental Pseudomonas endophthalmitis in rabbits. Acta Ophthalmol Scand 71:666-670、1993。

巻頭言に関する論文

新しい薬動学的指標 maximum concentration in the aqueous による汎用抗菌点眼薬の評価……………195





思い出の書評・掲載誌・論文

日本眼感染症学会50周年記念誌 会長印象記（2014年3月）掲載

第42回日本眼感染症学会

第39回日本眼炎症学会：高橋 浩（日本医科大学）
第48回日本コンタクトレンズ学会総会：清水公也（北里大学）
第25回日本眼薬理学会：望月 學（東京医科歯科大学）

会 長：秦野 寛（ルミネはたの眼科）
開 催 地：パシフィコ横浜会議センター
会 期：2005年7月8日（金）、9日（土）



特別講演者の両先生を囲んで（前列左から小林名誉教授夫人、小林俊策名誉教授、故田中直彦教授夫人、後列左から事務局秦野、塩田洋教授、寺西秀人先生）

この第42回より以前はスリーサムとして日本眼感染症学会、日本眼炎症学会、および日本コンタクトレンズ学会の3学会の合同開催が定着していた。この会では、日本眼薬理学会が新たに一度だけではあったが合流したため、会の名称もフォーサム2005となった。会長は日本眼感染症学会が筆者、日本眼炎症学会が日本医科大学の高橋 浩教授、日本コンタクトレンズ学会が北里大学の清水公也教授、日本眼薬理学会が東京医科歯科大学の望月 學教授であった。この回は、いくらか所帯が大きくなったため、学会業者と4会長の合同事前打ち合わせは多かったように思う。まとめ役は日本コンタクトレンズ学会総会長の清水教授であった。今では秘話であるが、この会は日本眼循環学会も参加して、一時は“2005年ファイブサム”になりかけた。しかし、結局日本眼循環学会が乗りかけたが降りて、結局フォーサムとなった。

さて、ここから日本眼感染症学会のことについて書きたい。改めて振り返ると、日本眼感染症学会で長く筆者がお世話になった方は大勢おられる。そもそも本学会の生みの親として会を立ち上げられた三井幸彦理事長の下で、相撲協会に例えれば理事長を支え、会を実務リードされておられた四横綱ともいべき方々がおられたように思う。それは小林俊策先生、北野周作先生、内田幸男先生そして田中直彦先生の4教授である。残念ながら、学会開催時点では、内田先生と田中先生はすでに他界されていた。そこで、自分としては、42回のメインイベントとして、お世話になった「先生方を偲び、かつ眼感染症を顧みる」という趣旨で、“内田・田中メモリアル講演会（角膜ヘルペス）”を企画することにしたのである。早速、小林先生と北野先生に講演をお願いしたところ、両先生とも快諾して戴いたが、学会が近づくにつれて北野先生が体調を悪くされて、降板される事態となってしまった。そこで、やはり体調万全ではいらっしやなかった小林

先生に“顧みて”と題して短いお話をしていただき、改めて特別講演を塩田 洋先生、教育講演を大橋裕一先生にお願いした次第である。小林先生がもしもの時には、座長の私が先生原稿を代読して、スライドを紹介するつもりで臨んだ。幸い小林先生が頑張ってくくださった。4人の大先輩のお1人だけでもその登場が実現して、本当に歴史的にも意義あるものとなったと思っている。その後、北野先生、小林先生も間もなく、内田先生・田中先生を追うようにこの世を去られた。思えば、この時、心身ともにご負担をおかけすることになった両先生には大変に恐縮し感謝している次第である。

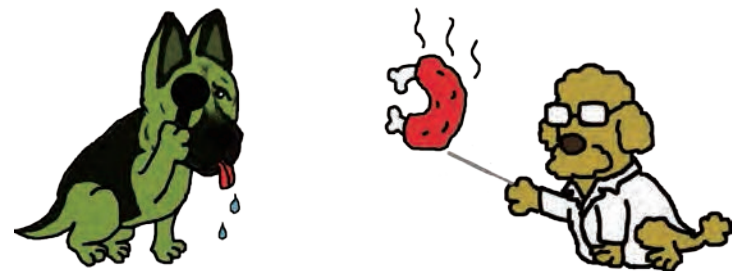
改めて、私は日本眼感染症学会におけるロートルといわれる高齢な先生方の価値と有難みを特記しておきたいと思う。所詮どのジャンルの学会も似たことかもしれないが、とくに眼感染症では、ロートルの存在は貴重だと思う。なぜなら、たとえば感染症の歴史を振り返った場合、年長者しか、前化学療法時代を知らないからである。つまり、彼らは薬のなかった時代のヘルペスや緑膿菌感染症の無治療自然経過を知っておられる。若年者は知る由もない。日本眼感染症学会での年長者はこの点だけでも極めて貴重な生き証人といえる。他領域でいえば、主に機械の進歩に支えられた日本眼科手術学会などとは質的に趣を異にしている気がする。筆者は日頃から、より年長の日本眼感染症学会の会員は敬愛すべき魅力的存在と考えている。その意味で、総括すると42回は自分として、尊敬してやまなかった眼感染症の自分にとっての巨匠達との別れであり、区切りを感じざるを得ない感慨深い会となったと思う。

筆者は都合2回（25回・42回）会長をさせていただいた。あえて両会を比較的に総括すると、25回では希望に目を輝かせて外に目を開き、42回では先輩達に想いを寄せて内に帰った、そんな思いである。

column コラム

⑯日本の大学の国際レベル

最近、英国調査機関発表の世界の大学の評価順位が新聞に出た。日本の大学はアジアの1番にもランクされなかった。評価の物差しに問題ありかもしれないが、とにかく期待し予想したレベルではない。これから刺激を受けて大学のシステム改革が叫ばれよう。小手先の変更などは、焼け石に水である。私が思う希望の持てる唯一の解決策は、母校出身者をその大学の教授にさせないことである。現状は歴史ある大学ほど、教授は卒業生で大半が構成される。これを自立と呼ぶ。教授選で一応は形ばかりの全国公募はなされる。しかし内実はほとんど「できレース」である。よほどの阿呆でない限り、母校出身者が持ち点大量で選ばれる。教授になるなら、ほとんど母校しかチャンスがない。前教授と適切な年齢差がなければ、それで終わりである。外に立とうとしても、有名大学ほど卒業生で固められている。これでは、全国の学徒が真顔で上を目指して奮起しようがない。もしも他大学出身者だけが応募して競えば、本当に切磋琢磨した結果の実力順で教授になるはずである。それしかない。大学入学が疲れ切った到達点ではなく、将来のポジションを目指して1学年次から頑張る本当の出発点になるはずだ。今の日本の大学は受験勉強で力を使い切った若者が入る遊園地である。入園してホッとし、志も得ずにあつという間に卒園である。世界一の大学は夢のまた夢である。



column コラム

⑰クラリネットとファゴット

自分は今、ヤマハ大人の音楽教室でクラリネットを習っている。今テキスト2巻である。始めた主な動機はモーツァルトの晩年の傑作、クラリネット協奏曲の低音に取りつかれたせいである。実は、中声部のクラリネットとファゴットという楽器はシンフォニーを聴いているとほとんど目立たない。聴こうとしないと聞こえない楽器である。対照的なのが、高声部のフルートとオーボエである。昔、藤沢市民オーケストラで第九練習中、フルートが休んだことがあった。練習にならない。指揮者の福永陽一郎先生もそうおっしゃっていた。馴染みの旋律をフルートが吹くからである。しかし、音楽的に中声部は重要で、欠かせない。

人生や職場も同じだ。目立つ人と目立たない人が必ず両方いる。自身が好むと好まざるとに関わらず分かれていることが多い。お互い目立たない人に意識的に気を留めないと、評価を誤ることになりかねない。世の中、みんなで交響曲を鳴らしている。

クラリネット、ファゴットに戻る。是非、意識的にこの2つの楽器だけに耳を傾けて聴いてほしい。主旋律のフルートとオーボエは“聴こう”としなくても“聞こえ”てくるから無視していい。新しいクラシック音楽の探検的な聴き方を経験できるはずだ。例として、ベートーベンの田園交響曲がお勧めである。2楽章終盤にフルートがナイチンゲール、オーボエがウズラ、そしてクラリネットがカッコウの声を吹くところがある。それにしてもベートーベンのオーケストレーションは凄い。





“朋友あり遠方より来る、また楽しからずや” ビジターの方々

この20年間には小生の声掛けに応じ、見学と称して、わざわざ遊びにお寄りいただいた諸先生方が何人かおられる。たとえ、お見せするようなものがなくても、内覧いただいて、感想を言っていただくだけでも極めてうれしいものであった。また、小生の専門に行っている塗抹検鏡についての実習見学に来られた先生方もおられる。どなたの来訪もすべてわれわれの勇気と励みになった。うれしい歴史である。一部紹介させていただく。

今から思うと残念ながら、話や案内に夢中になり、写真撮影をうっかり失念してしまった先生方も多くいらした。残念である。写真をお出しできない先生方にはあいすみません。



テレンス・オブライエン先生(マイアミ大)、当院院長室にて



左から井上幸次先生、テレンス・オブライエン先生ご夫妻と



前列左から福田昌彦先生、木下茂先生



前列左から田川義継先生、大橋裕一先生、後藤英樹先生



恩師との思い出



左：田中直彦先生(横浜市大)



右：Thygeson先生(カリフォルニア大)



右端：内田幸男先生(東京女子医大)



右：北野周作先生(日本大)

column コラム

⑱敬愛する人

自分は、敬愛という表現を好んで使う。しかし、あえて“敬する”と“愛する”に分けて意識することもある。例えば、歴史上の偉人では西郷先生は敬する人で、良寛さんは愛する人である。作曲家ではベートーベンは敬する人で、モーツァルトは愛する人である。ベ이스ターズの投手では大魔神の佐々木は敬する人、番長の三浦は愛する人となる。いずれにせよ、これらすべての人たちは敬愛という枠内に入る。眼科医としては田中直彦先生とThygeson先生の二人の恩師が敬愛の対象であり、常にわが胸の上を去らない。Thygeson先生は“Thygeson点状表層角膜炎”で知られ、世界的な角膜感染症の第一人者であった。私の恩師田中先生もUCサンフランシスコ留学中Thygeson先生の教えを受けられており、私はThygeson先生の直弟子かつ孫弟子にあたることになる。

自分は、人が人間として、“幸せに生きている”ということの証の一つは、その人が、どれほど多くの分野で、どれほど深く、敬愛する人物を持てるかだと思う。成長するためには、身近に敬愛する人を見つけるしかない。正史に実例がある。モーツァルトはそれがハイドンであったし、ベートーベンはそれがモーツァルトであった。「まなぶ」は「まねぶ」と言った人がいる。正しい。モーツァルトの弦楽四重奏曲集「ハイドンセット」は師を真似た好例である。





恩人の本

アメリカと日本の眼科教科書2冊

最近の眼科書籍の出版ラッシュには目を見張る。ほとんどは縦割りの専門書のシリーズ刊行である。驚くペースと量で、学会の書籍展示はいつも花盛りである。

他方、医学生や研修医向けの全般的教科書は埋もれて目立たない。初学者は、広く浅く正確に書かれた伝統的名著をしっかりと読むべきだと思う。彼らが先ず学ぶべきは、疾患の発症頻度と予後の重要性つまり疫学的位置づけである。重箱の隅ではない。学会レベルの極稀なものに最初から一生懸命食いついても意味がない。明日の外来でその患者は先ず来ない。その意味で、索引(著者の良心)の充実した古典的教科書を座右に置くべきだ。索引にあるかないかで、疾患のおよその大きさを知ることができる。版を重ねた、誤りのない概説的教科書が大切である。

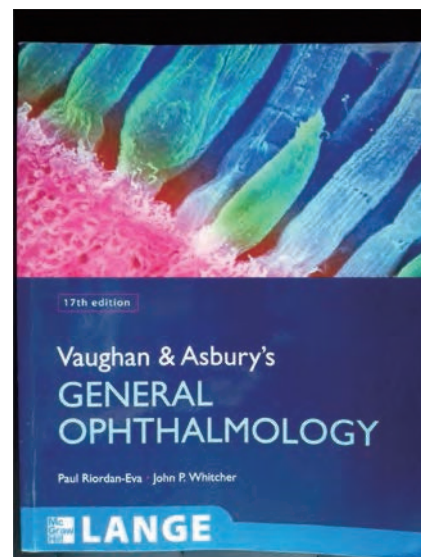
ここでは、小生がその編者と関係し推奨するアメリカと日本の歴史ある眼科教科書の代表的2冊について、自分が知る出版にまつわる裏話を含めて紹介しておきたい。

～小さな語り部～ 秦野 寛

1. GENERAL OPHTHALMOLOGY (LANGE series)

本書は古くからあるLANGEシリーズ中の眼科版教科書である。当初、出版社は編集主幹を「Thygeson角膜炎」で知られるUCSF教授、Proctor Foundation directorのDr Thygesonに依頼したそうである。だから、本来であれば“ThygesonのGeneral Ophthalmology”として世にその名をはせるはずであった。しかし、先生はなぜかその編集の栄誉を部下のDr Vaughanに譲っている。その後、本書は長く改訂が繰り返され、最近はずっとDr Riordan-Evaが改訂編集を担当している。最新版は18版である。自分はVaughan から直接もらった11版を含め14版、17版の3つの版を持っている。Riordan-Evaはケンブリッジ出の眼科医で、私と同期のProctor Foundation fellow 仲間である(61P写真)。彼は帯米中に知り合ったVaughanの姪と結婚してLondonに連れ帰っている。本書は安価でもあり、英語で読みたい人に是非勧めたい名著である。

さて、Vaughan だが、お気の毒なことに愛娘のCeciliaさんを交通事故で亡くした。その後彼女を記念するため私財を寄付しCecilia Vaughan memorial fellowshipを創設した。日本人では私、大橋裕一先生、島田孝吉先生、桜木章三先生らがこのfellowshipを受けている。多くの日本人がお世話になった。私の診察室には永遠の少女Ceciliaの写真が飾られている。Vaughanファミリーへの感謝を忘れたくない。



左: Dr Thygeson、右: Dr Vaughan、タイゲソンの自宅で



中央: Dr Vaughan、左から2人目: Dr Riordan-Eva、サンフランシスコで

2. 現代の眼科学 (金原出版)

この本は、金原出版社の各科教科書シリーズの眼科版として企画出版された。初版は自分の恩師田中直彦先生(横浜市大教授)と所敬先生(東京医科歯科大教授)の編集により刊行された。その後、編集者を変えて増版を重ね、我が国において比較的古い教科書の名著となっている。

数年前、久々に書籍展示で本書を手にとってみた。なんたることか、田中先生の名前が見られない。初版編集者の名前を残さないとはいけしからん。すぐ金原の編集の方に怒鳴り込んだ(本当は私らしく、温厚に質した)。先生は本書の完成に心血を注いでおられた。横で見ていた私はよく知っている。今年の日眼総会の書籍展示で最新刊を恐る恐る手にしてみた。表紙を開くと冒頭ページに田中・所の初版のprefaceが名前入りでそっくり掲載されていた。続くページにはその後の歴代の編集者全員のお名前が書かれてあった。本当に良かった。これこそ、伝統ある眼科教科書の品格を備えたと思う。天国の田中先生に報告できる。



(第1版 1983年)





思い出のアルバム (一部20年間の前後を含む。残念ながら、自分との写真が残せなかった大切な先生方が大勢おられました。)

学会医会の諸先輩や友人と①



藤沢市眼科医会



神奈川県眼科医会



林先生、三宅先生、宇津見先生、尾羽澤先生、高野先生らと



Jang Oh先生、田中直彦先生、カール・ヘルボルト先生、ベンディミラ先生らと

column コラム

⑬ モーツァルトの作曲法

オペラ「コシ・ファン・トゥッテ」作曲時の逸話が音楽評論家諸氏からよく語られている。直筆の総譜には修正や書き直しがほとんどないので有名だ。これを彼に天から音楽が舞い降りて、この時モーツァルトは速記者としての人格しかなかったというものである。だから彼はミューズ(楽神)の落とし子だとか。自分はこの種の解説にはいささか違和感を感じている。モーツァルトは努力家だった。旅の宿で、また揺られる馬車の中で、頭の中で作曲をしていたはずだ。数学のできる人がそうである。彼らはいきなり紙に書いて問題を解くようなことはしない。頭の中でおよそを解決してしまう。書く時はもう解答がほぼできているのだ。モーツァルトもこれと同じだ。白紙の楽譜に向かった時に初めて沸いた楽想ではないと思う。ゲーテは天才とは努力できる才だと言い、小林秀雄はモーツァルトという題の文で天才は努力を発明すると書いている。私は30年後モーツァルトに会う約束をしている。その時、聞いてみたい。神から電線を通じて音楽を受領したのか、それとも、日々こつこつ楽想スケッチを蓄え、脳裏に構成しておいたものを一気に写譜をしたのかと。自分の場合、執筆原稿を作る際、パソコンに向かった時にすべてを考え考え、書いている訳ではない。田園、草原、林、浜辺を犬と散歩の折(ベートーベンみたい)、キーワード、キーセンテンスをこつこつと考える。それを帰って肉付けし構成しなおしているだけだ。一気に原稿がスラスラ書ける場合は多くが歩きながら事前に脳内で推敲しておいた場合が多い。モーツァルトと似ている。



学会医会の諸先輩や友人と②



前列左から大橋、北川、田川、秦野、後列左から井上、高村、下村、中川先生(ヘルペス研究会メンバー)



左から桜木章三先生、秦野、嶋田孝吉先生、内田幸男先生、大野重昭先生、K、タバラ先生



吉岡先生、望月先生らと



中央：三宅謙作先生、左：田坂嘉孝先生と



左端：大石正夫先生らと



学会医会の諸先輩や友人と③



玉井信先生、内田幸男先生、山本卓司先生らと



右から相沢克夫先生、秋元清一先生、谷口重雄先生、岡本茂樹先生



黒坂大次郎先生らと



金井淳先生、井上幸次先生、宮田和典先生らと



内藤毅先生、塩田洋先生、原二郎先生らと



左：八子恵子先生

学会医会の諸先輩や友人と④



林篤志先生、高橋寛二先生、鳥崎真人先生らと



右：馬嶋慶直先生



右：田沢豊先生



左から東範行先生、小椋祐一郎先生、鈴木康之先生、寺崎浩子先生



望月學先生、白土城照先生



中央：保坂先生、右端：田宮先生と



学会医会の諸先輩や友人と⑤



左：内尾英一先生



門之園一明先生、山根真先生らと



右端：佐々木隆敏先生らと



右：森富貴子先生



研修医お花見BBQ&クルズス



水木先生、中川先生、石岡先生、西田先生らと



20周年記念パーティー

日時：2017年1月10日

会場：隠れ里 車屋

これまで支えてくださった皆さまやスタッフ、そして家族とともに20周年記念パーティーを行うことができました。これからも「ルミネはたの眼科」をよろしくお願いいたします。



お祝いのお花を沢山いただきました。皆さまありがとうございます。



ドッグトレーナー佐々木了さんが描いた、秦野家の愛犬レルの似顔絵。待合室に展示しています。

column コラム ②0 万能パスポート

人生の万能パスポートとは何だろうか。通過時点によっては、金であつたり、人脈であつたり、知識であつたりするかもしれない。しかし、全経過を超越したら最後は「謙虚さ」かもしれない。今は何となくそう思う。ただし、そう簡単に謙虚さは身につくものではない。哲学書を読んだところで、瞑想したところで、おいそれとは謙虚にはなれぬ。瞬間は謙虚さを錯覚できるが、やはり幻想と気づく。謙虚さはある程度、生まれつきのDNAか。粉飾めくが、自分は多少でも謙虚になりたいと思って試していることがある。それは習い事である。大半の先生は自分より年下である。50代でヨット、乗馬、茶道、60代でクラリネット、イタリア語という具合である。レベルは常に二流に低迷だが、体感、体得できることがある。自分は何も知らない(無知の知)と言うこと、自分はからっきしできないと言うことである。少し謙虚になれる気がする。次にやるなら、やっぱりギターかもしれない。





院長の趣味・習い事



リラフィル弦楽合奏



クラリネットレッスン



愛犬



セーリング



乗馬レッスン

column コラム

②① モーツァルトのオペラの聴き方ー絢爛たる女性たちー

自分のモーツァルトのオペラ体験は魔笛から始まり、かなりの年月になる。昔、音楽評論家の大木正興氏がボロッとやったことが、ずっと耳に残っている。現在に繋がる感謝すべき情報であった。氏曰く、「モーツァルトの女性を見る目は実に確かです」。初め、何のことかわからなかった。最近、だんだんそれがわかってきた。その話をしたい。

我々、特に男が実社会で一生涯に遭遇できたり、親しく接近できる女性はどれだけいるだろうか。高が知れている。モーツァルトは、特に私のような奥手には、およそ実人生では巡り合えないような多種多様の魅力的な女性に会わせてくれる。それは官能的なレベルにまで及ぶ。

自分が感得できるモーツァルト世界の女性類型を列挙する。作品はドン・ジョバンニ、フィガロの結婚、コシ・ファン・トゥッテ、魔笛である。まず、高貴で凛とし近寄り難いドンナ・アンナ(ジョバンニ)、高貴でしとやかで優しい伯爵夫人ロジーナ(フィガロ)、高貴で清純な王女パミーナ(魔笛)、やや高貴だが、男好きであばずれで男からすれば敷居の低いドンナ・エルピラ(ジョバンニ)、平民で、嫁さんにしたらさぞ働き者の利発なスザンナ(フィガロ)、平民で純情なおぼこ娘ツェルリーナ(ジョバンニ)、高貴な姉妹だがフィアンセを互いに交換してしまうエロチックなドラベツァとフィオルディリージ(コシ)など。とにかくこれら女性像が見事に音符で表現されている。R・シュトラウスはモーツァルトのオペラのあの3小節が自分に書けるなら、自分の作品3つをあげてもいいといったそうである。

「キルケゴールがドン・ジョバンニを聴いて戦慄を覚えた」とか聞いている。彼は「女は年を取るほど美しくなる」と言ったそうだ。この2点だけ知っているが、関連性は知らない。せっかくだけ書いたので削らない。今度調べておく。

column コラム

②② モーツァルト後期3大交響曲の聴き方ー人生ー

モーツァルト後期3大交響曲は3曲セットで、あたかも人生の縮図である。第39番変ホ長調は青春期、とにかく誕生、希望、結婚、豊潤などの表現がふさわしい精気みなぎる時期で、季節で言えば春と夏である。この曲は1点の曇りも陰りもない。3楽章のクラリネットは絶品である。第40番ト短調は定年までの壮年期、戦い、挫折、諦観などの時期で、季節でいえば秋と冬である。モーツァルトの走る悲しみなどという表現にも遭遇する。クラシック音楽史上ただ一つ純粋器楽曲を選べと言われたら、この曲を選ぶ人が大勢いるはずである。第41番ハ長調は晩年の人生の整理期、個々人の人生を例外なく肯定し、若死にしまかった長寿をただただ敬い祝うのみ。良かった良かったと古希、米寿、卒寿などの手放しの祝宴であり、季節は全てを包含している。第一楽章はハ長調の壮大な和音で開始されるが、私にはあとは人々が酔っ払って、酒を注ぎながら酩酊して祝宴を歩き回っている曲にしか聞こえない。実にふざけた楽章である。終楽章は対位法という技法が駆使されているそうだが、今まで使われたいろいろなメロディーが重なって出て来る音楽で、自分には何か走馬燈のように振り返りながら、しかも堂々と終わるという風に聞こえる。これが自分の3曲感である。自分が人生のどの地点にしようとも、過去を振り返ったり、今後を予想したり、全人生を予測含めて一応完成させ、時に人生を整理、鳥瞰しておくのも悪くはない。この3曲は優れた哲学書である。音楽は最高の啓示である(ベートーベン)。

CDはアバド版など40,41番の2曲しか入っていない版が多いが、オトマール・スイトナーやギュンター・バント版は全3曲が1枚に入っていて便利である。モーツァルトの音楽の肩幅の広さを考えれば、指揮者など誰でもよい。



副院長として

ルミネはたの眼科 副院長
山添克弥



当院は1997年1月10日に開院し、本年20周年を迎えました。私は、2011年から当院で診療を始め、2016年から副院長として主に白内障手術や専門外来を担当しています。それ以前には角膜移植を専門とする東京歯科大学市川総合病院に勤め、当時の同期であり現在妻である響子(院長の長女)と知り合ったことが当院で働き始めるきっかけでした。

今回、編集委員として20年誌の作成に携わり、開院以来の当院の歴史や院長のこれまでの活動を改めて知ることができました。現在の医院の姿になるまでに院長、事務長はじめ多くの方々の多大なる努力があり、また延べ50万人以上の患者さんに受診して頂いたことを知り、当院の地域における役割の大きさを実感しました。また、院長の業績の整理をしている際には、開業後も多くの学術発表や講演、論文執筆をされていることに驚きとともに尊敬と憧憬の念を抱きました。現在も、医院での診療の他、臨床教授として大学病院での診療や教育、学会役員としての活動等を行い、週末には学会や講演のため全国各地を飛び回り、空いた時間には論文原稿を執筆するという「鉄人」のような姿を目にしています。

当院は開院当初から日帰り白内障手術、日帰り角膜移植を行っており、日帰り手術に関しても20年の歴史となります。特に角膜移植に関しては日帰り手術の国内の先駆けであり、今後はさらに手術の幅を広げ、日帰り硝子体手術も始める予定です。

院長の医療に対する思い、理念を守りながら、新しい取り組みも行い、今後より一層地域医療に貢献できるよう尽力していく所存です。今後とも宜しくお願い致します。

2017年1月10日

プロフィール

平成18年	名古屋市立大学医学部卒業 倉敷中央病院	平成27年	亀田総合病院眼科医長(現任) 亀田医療大学客員研究員(現任)
平成20年	亀田総合病院眼科	平成28年	慶應義塾大学医学研究科博士課程修了 医学博士
平成21年	東京歯科大学市川総合病院眼科		慶應義塾大学訪問研究員(現任)
平成24年	慶應義塾大学眼科学教室 日本眼科学会専門医		ルミネはたの眼科副院長(現任)

職員を代表して

外来部長 高木信男



開院当時クリニックは8階にあり、今よりスペースも小さく検査機器を置くのも工夫が必要でした。当初は患者さんが少なく、院長とお茶を飲みながら患者さんを待っていたのも懐かしい思い出です。角膜移植や白内障手術、近視矯正のオルソケラトロジー、電子カルテのことなど「夢」の話もいろいろと伺いました。手術に関しては、およその時期は決まっていたのですが、それ以外の夢もこの20年間に次々と実現してきました。

院長は誠実で勉強家です。今も変わらず精力的に学会に出席し、最先端の医療を学び、それに基づいた診療方針を貫いています。患者さんに対しても、常に誠実に向き合い、説明も丁寧でわかりやすく、聞いていてとても勉強になります。その誠実さは手術にも表れています。術後連続で通院していただいているのですが、ここで術後感染症をしっかりと管理しているので、これまで当院からは術後感染症は1件も出ていません。術前検査においても妥協せず、散瞳や眼内レンズの度数を決める検査を複数回行い、最新の検査機器で眼底をチェックすることで、より安心安全で精度の高い手術ができるよう準備をしています。

普段、私たちはできるだけ機敏に行動し、患者さんに笑顔で接し、そして顔を覚えてコミュニケーションをとるように心がけています。いつも長い時間お待たせしてしまいますので、少しでもストレスを和らげることができればと思っています。

また、忘れられない思い出として、私が体調を崩して入院しなければならなくなった時、報告したその場で入院先の部長先生に電話をし、私のことをいろいろお願いしてくださいました。入院等したことがなく不安で心細かった時に、どれだけ心強かったことか。院長の思いやりと行動力に、感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。これからも院長の診療に対する理念は変わらないと思います。私たちも医院理念を守り、患者さんの気持ちに寄り添いながら、院長にできるだけ長く診療を続けていただきたいと願っています。これからも、どうぞよろしくお願い致します。

看護師 中島裕子



院長が施術してきた約1万件以上の手術のほとんどに関わってきました。手術を何事もなく終えられ、次の日眼帯が外れた時に喜んでいただけるようにサポートしています。院長の理念が素晴らしく、勉強熱心な姿を見ると、自分もできることを最大限しようと感じます。人と接することが好きな私は看護師の仕事も大好き。患者さんの立場を自分に置き替えた場合どうかと考え、寄り添い、少しでも不安を取り除くお手伝いができればいい。こうして皆さんとの関わりを持たせてもらっていることに深く感謝しています。

受付事務代表 小柳真知子



院長は真っ直ぐで筋が通った方。ユーモアを交えた誠実な診療が、患者さんの信頼を得ているのだと感じます。開院当初からスタッフ向けの勉強会を開いてくださり、受付業務の中でも患者さんをどうサポートすれば良いか考える参考になっています。

普段せっかく先生が良い診療をしてくださるのに、受付がそれを壊しては台無しです。私たちは明るい声と笑顔で心を込めて接し、いらっしゃる患者さんに安心してもらうことで、はたの眼科の一員として院長のお手伝いができればと思っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。

編集後記

院長から、約1年前、20年誌をつくるぞ！という声のもとに副院長、外来部長、事務長、湘南よみうり新聞社の編集長 須藤さんを迎えて編集委員会なるものをたちあげました。この記録誌編纂は、一年をかけて院長のもと、データをまとめ、業績を整理しなおし、記録をまとめるという作業をとおして、院長が目指していること、やってきたこと、はたの眼科の現在がはっきりと浮き彫りとなりました。とても大切な作業であったと思います。

振り返りますと、10年誌を部活記録の乗りで。15年誌をプロの写真家 兵庫達弥氏と言葉を排除して、白黒の写真でその時をおさめようと斬新さに挑戦しました。そしてやっとやっと、この20年誌を念願の、極一般的で普遍的な記念誌としてまとめることができました。

編集長を引き受けてくださり、カメラマンも兼ね、孤軍奮闘してくれた須藤さんの力添えのたまものと、感謝申し上げます。また可愛いイラスト、院長の愛犬レルのスケッチを書いてくれて、やはりちょっとだけ、エスプリをきかせた個性的な記念誌にしたいという想いに、貢献してくれたわが家のドッグトレーナー 佐々木了さんにも、深く御礼申し上げます。

学術面では、今後のはたの眼科を背負っていつてくれる副院長が、院長の業績を整理しながら、自分の将来もしっかりと見据えてくれる、よき時間を共有できたと思います。

もちろんまだまだ、院長は現役バリバリ。新しいことへの挑戦は続きますが、より良き若い力も合わせ、最強のチームプレーができるころまでできました。嬉しいかぎりです。

また外来部長として、日々悩み苦しみ、楽しみ？患者さんと共にある高木部長の力も、はたの眼科にはかかせない存在です。その力も後押しになった記録誌でもあります。そしてこの20年を支えてくださった皆様に、苦労をともにしてきたスタッフ全員に、このような日が迎えられて、誇らかに？！記念誌を発行できることを、感謝せずにはいられません。ありがとうございます。

この先も努力あるのみと気持ちを新たにしました。祝辞をいただきました先生方にも、この場をかりて、御礼を申し上げます。かたどおりでない優しい思いに、何度読んでも涙がこみあげます。歴史が、重なります。勇気が湧きます。深謝！

平成29年1月10日
事務長 秦野文枝

column コラム

㊸笑う人より、笑われる人

コルシカ島の貧乏人出身の皇帝ナポレオン、農民から立身出世した関白秀吉、高等小学校卒から総理になった田中角栄。大をなした人は、ほとんどが周囲から笑われ続けた人だ。笑った人の後には、たいした足跡は残っていない。恥多き人生こそ大人生か。自分は人から笑われてこられたのだろうか。

前にも書いたが、自分は大学時代ヴァイオリンという楽器そのものが置物として欲しくて衝動買いし、結果的にヴァイオリンとしては極めて晩学で習うことになってしまったいきさつがある。おそらく、周囲の人にききられたり、笑われたりしたかもしれない。少なくとも被害妄想的に恥ずかしそうに自分はヴァイオリンと関わってきた。ヴァイオリンケースを背負って歩くのも誇らしく歩けたことは一度もない。しかし、今にして思うと、合奏を楽しめるという得ものは少しあったし、失うものは何もなかったと思いたい。音感と才能がない分、無駄な練習で時間はかなり失ったかもしれない。



最後に、家族への感謝を述べて、後書きとしたいと思います。妻の文枝には事務長として開業当初から20年間、慣れない医療事務から始めて大変苦労を掛けました。また長女の響子と夫の克弥の二人には眼科専門医として診療面での多大な協力を得ており、また長男のヴァイオリニスト陽介にはアイバンクチャリティーなど当科関連イベントでの演奏など、皆に多方面で支えられてきました。また4歳、1歳の孫には将来へ繋がる希望をもらっています。

実は内心、本誌は家族への伝承という意味も込めて作りました。自分は四、五世代以前の先祖のことなど何も知りません。何をしていた、どう考えていたか。文書が厚い印刷物で残っていないからだと思います。ささやかでもアーカイブをハードコピーで残したい。日記や手紙などではほとんど残らないし、電子媒体も心もとない。本棚に立つ厚さのbookなら捨てられずに残るかもしれない。

ここまで書いて矛盾も甚だしいのですが、だからこそ。大好きな良寛の辞世の歌で終わります。

“形見とて何か残さん 春は花 夏ほととぎす 秋はもみじ葉”



● レル

2004年4月23日生まれ、めす、12歳 ジャーマンシェパード

幼児期は、破壊魔王の名のもとに書斎机から、壁、床にいたるまで、一室、破壊しつくした、いたずらっ子でした。ところが、成人すると、銅像!?ですかと、たずねられるほど、人の前では、大人しい 穏やかなレルです。美人さんです。人の話をしっかりと、目を見てきてくれます。いまは、もうおばあさん! ひがなひなたぼっこをのんびりして余生を過ごしています。がんばれ! 名前の由来は、ちょうど、レルが来たときに、留学していた息子のウイーンの住所、レルヘンガッセ、ひばり通りから、とりました。正式名「レルヘン」

● ニコラ

2013年1月1日生まれ、おす、4歳、トイプードル

ちょうど、孫がうまれて、それを確かめるように二匹のトイプードル、モモと、ウォルフィーの姉弟がなくなりました。そしてある日、ニコラが、丸々と可愛らしい姿でやってきました。いまは、トイプードルには長すぎる美脚で、手長猿のようです。レルに可愛がってもらい、凸凹コンビで、毎日お散歩に連れて行ってもらっています。色が似ている我家のヴァイオリンの銘にちなんでニコラとつけました。

Achievement of Hatano Eye Clinic 20 years

ルミネはたの眼科 20年のあゆみ

発行日：2017年1月10日

編集委員：秦野文枝、山添克弥、高木信男

イラスト：佐々木了（佐々木ドッグトレーニング）

編集協力：須藤希久

印刷：株式会社湘南よみうり新聞社



診療日・診療時間

受付時間	月	火	水	木	金	土	日	
8:30~12:00	○	○	△	○	○	○	●	● 2017年8月まで
14:00~17:30	○	○	△	○	○	★	△	★ 2017年9月より

2017年8月まで水・祝日は休診日

2017年9月より水・日・祝日は休診日

医療法人湘陽会



ルミネはたの眼科

〒251-0052

神奈川県藤沢市藤沢438-1 JR藤沢駅ビル ルミネプラザ7F

TEL 0466-50-0811

<http://www.ha-ta-no.jp>

